
太良町次世代育成支援行動計画策定のための
アンケート調査

結果報告書（要約）

調査の概要と回答者属性

1 調査の概要

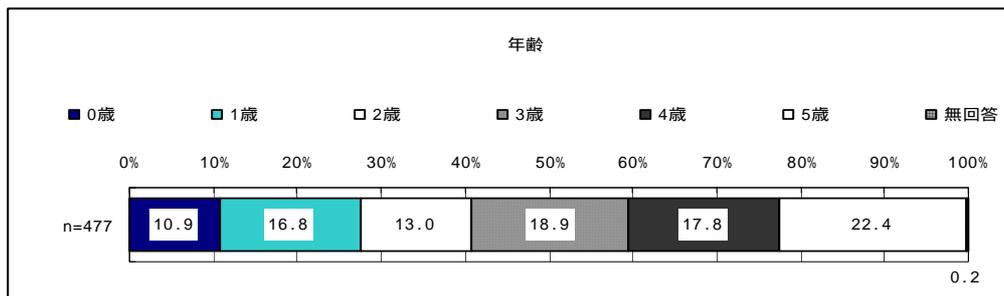
(1) 調査対象及び調査方法等

調査対象	就学前	小学生	中学生・高校生	町民
調査方法	郵送法及び施設を通じた配布回収法	学校を通じた配布回収法	郵送法及び中学校を通じた配布回収法	郵送法
調査時期	平成16年1月10日～2月10日			
有効回収数	477	688	176	61

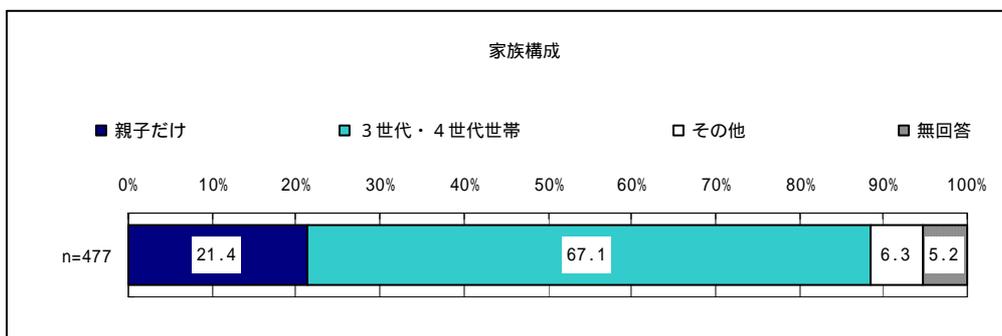
2 調査対象者の属性

(1) 就学前児童アンケートの調査対象者（回答者）属性

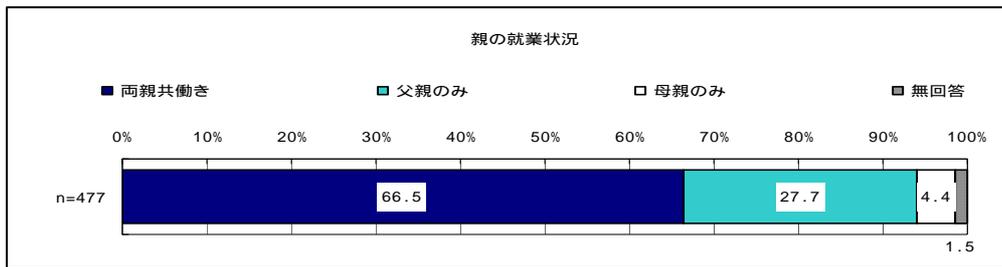
子どもの年齢



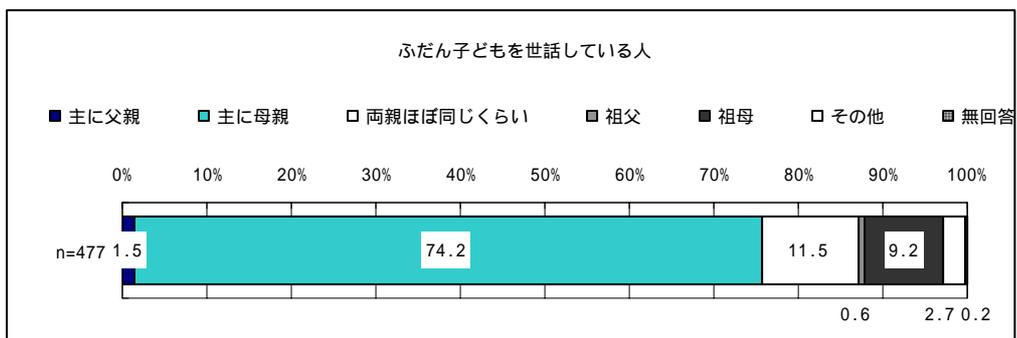
家族構成



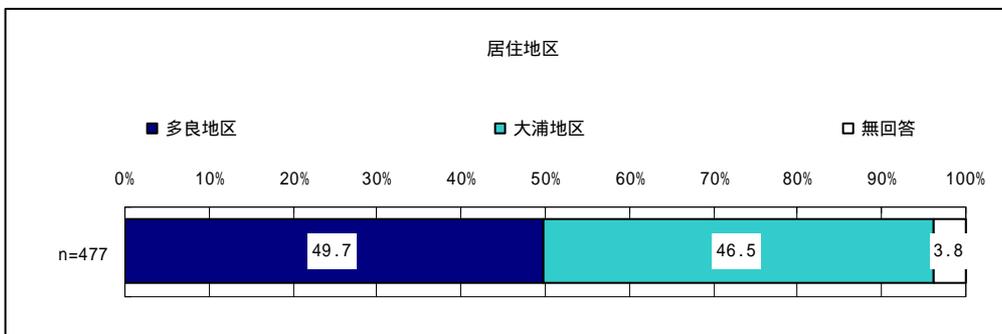
親の就業状況



ふだん子どもを世話している人

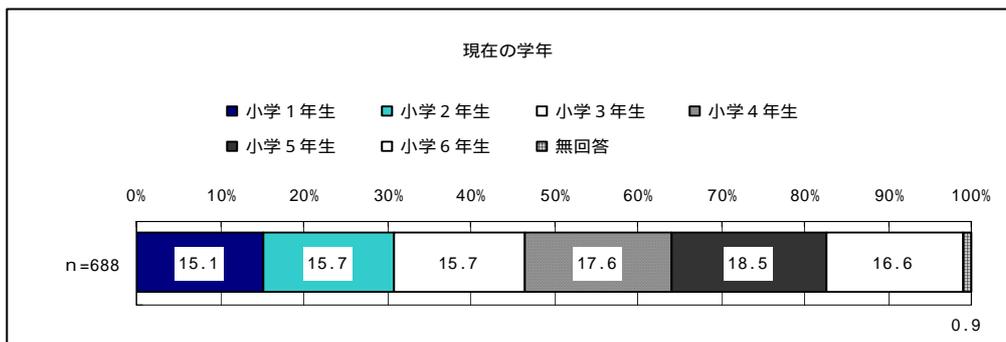


住居地区

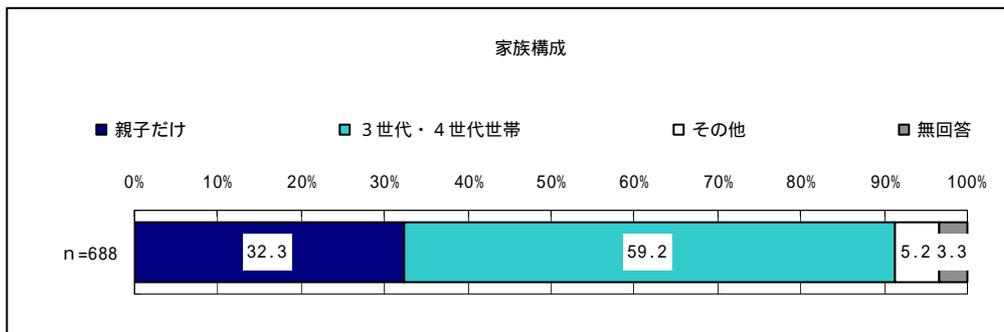


(2) 小学校児童アンケートの調査対象者(回答者)属性

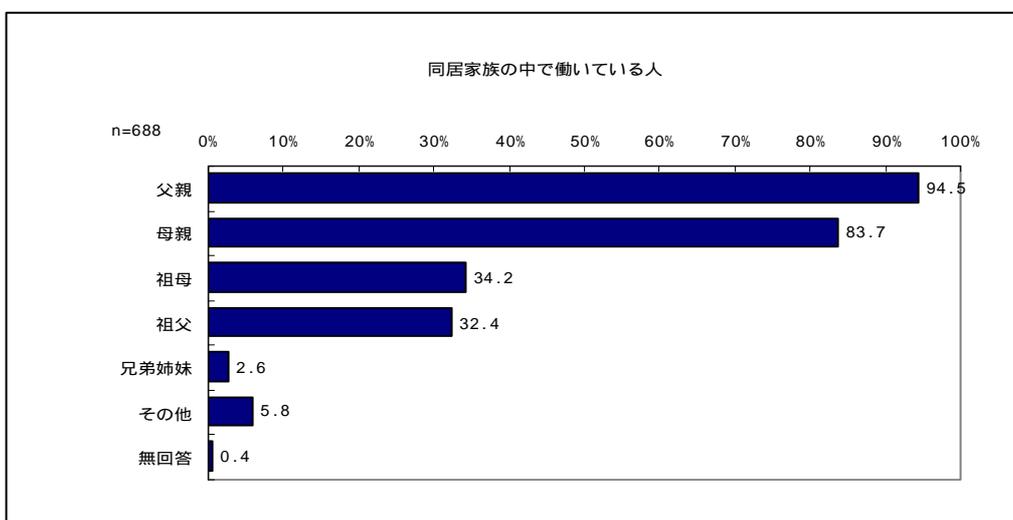
学 年



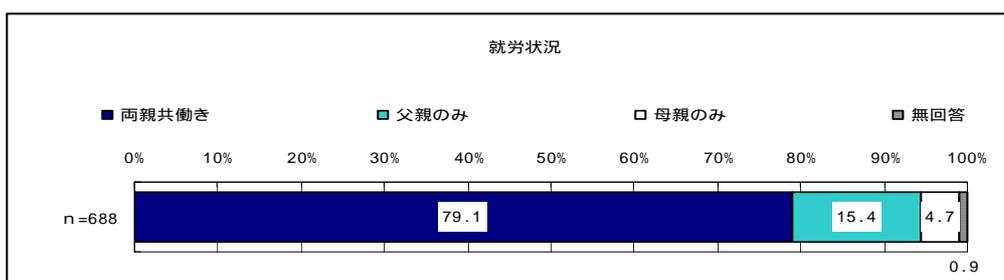
家族構成



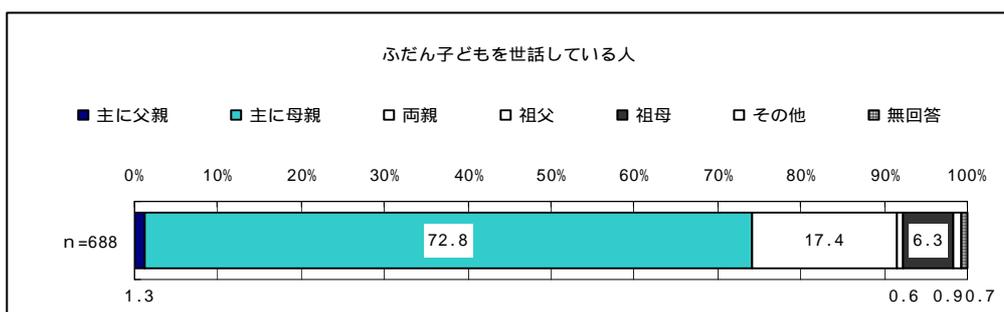
同居家族の中で働いている人



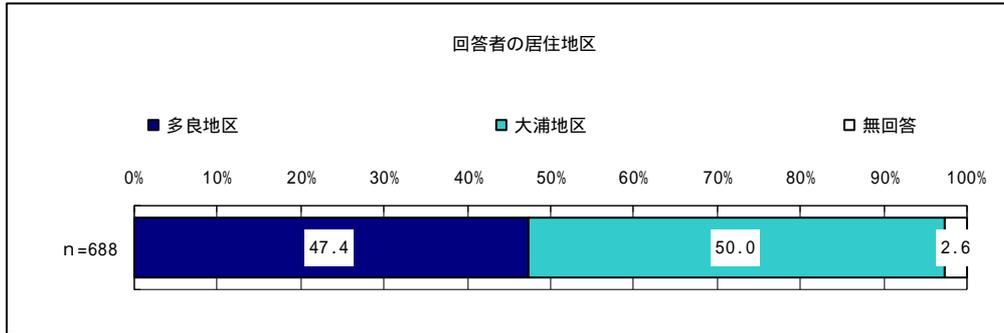
親の就労状況



ふだん子どもを世話している人

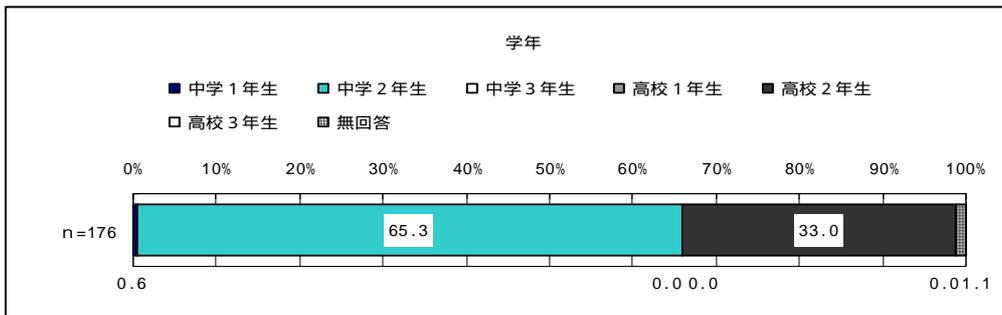


住居地区

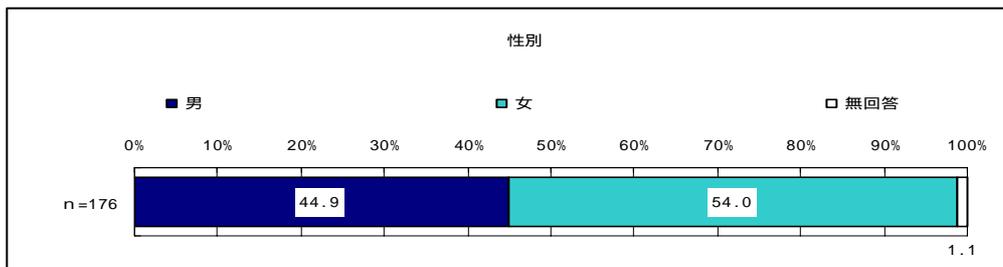


(3) 中学生・高校生アンケートの回答者属性

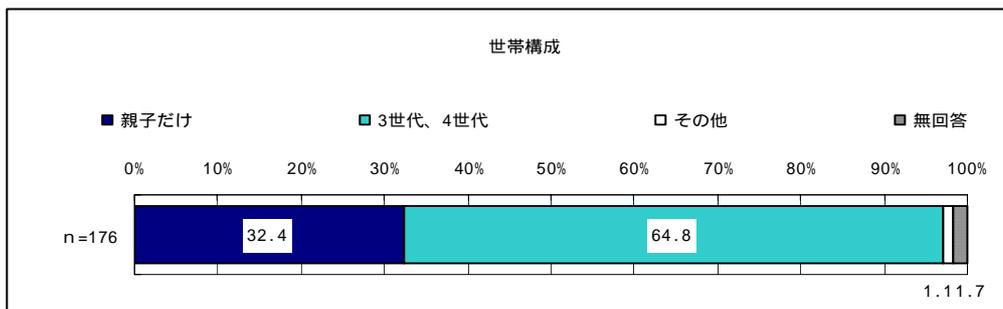
学 年



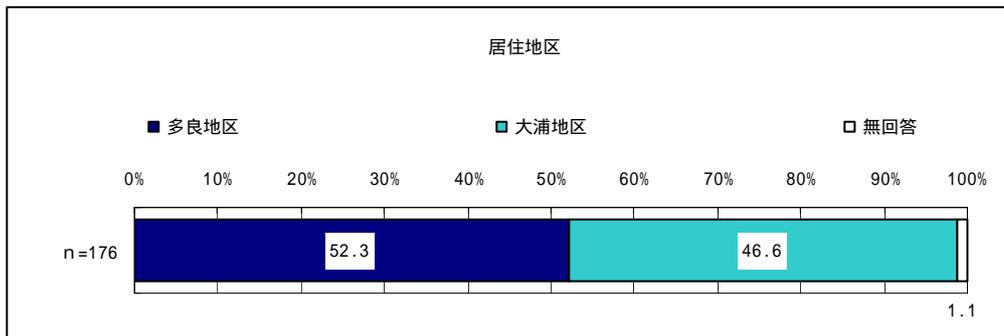
性 別



世帯構成

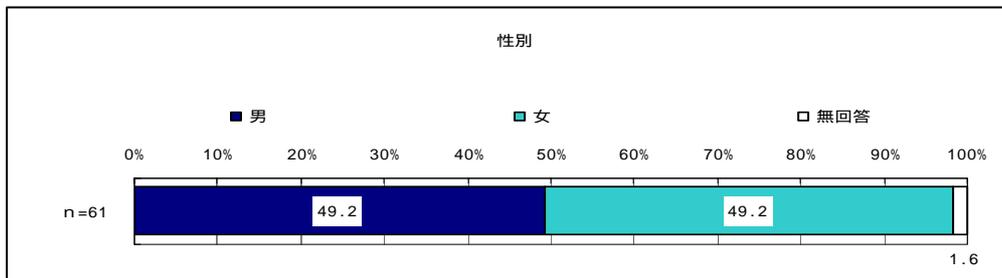


居住地区

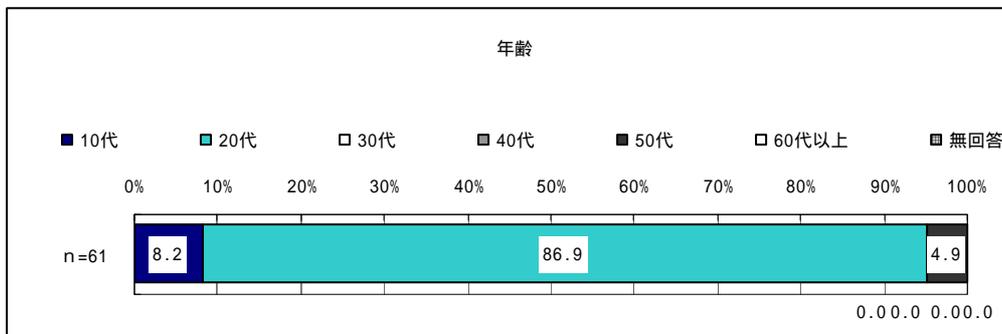


(4) 一般町民アンケートの回答者属性

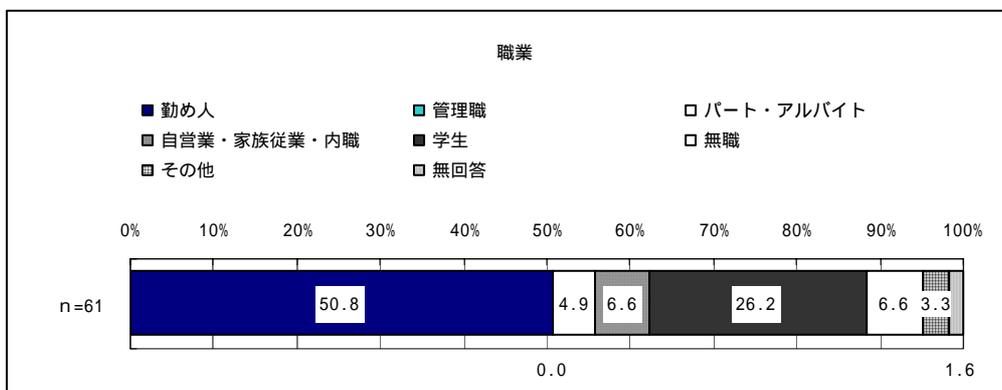
性別



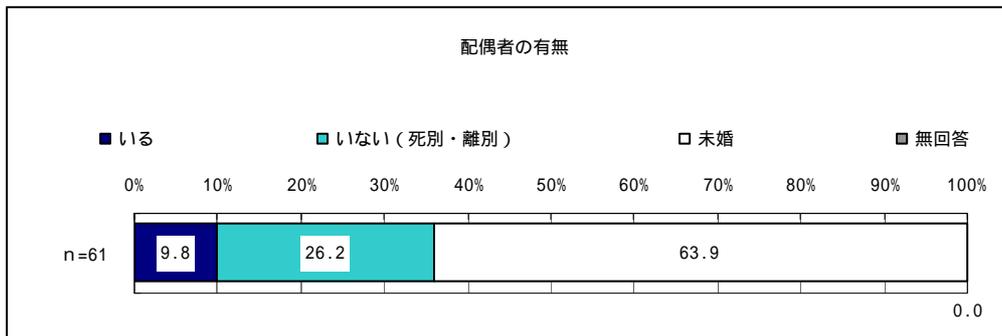
年齢



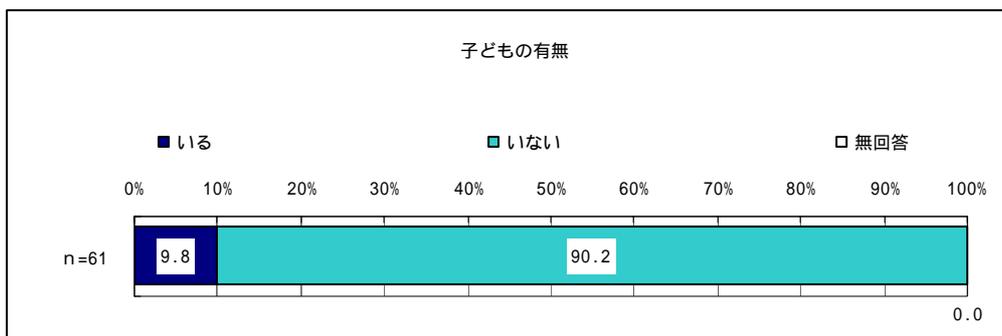
職業



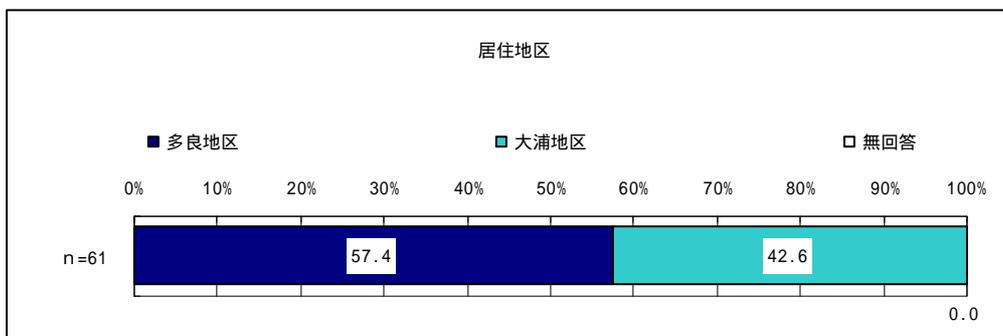
配偶者の有無



子どもの有無



居住地区



調査結果（要約）

1 就学前児童アンケート

（1）子育ての身近な協力者

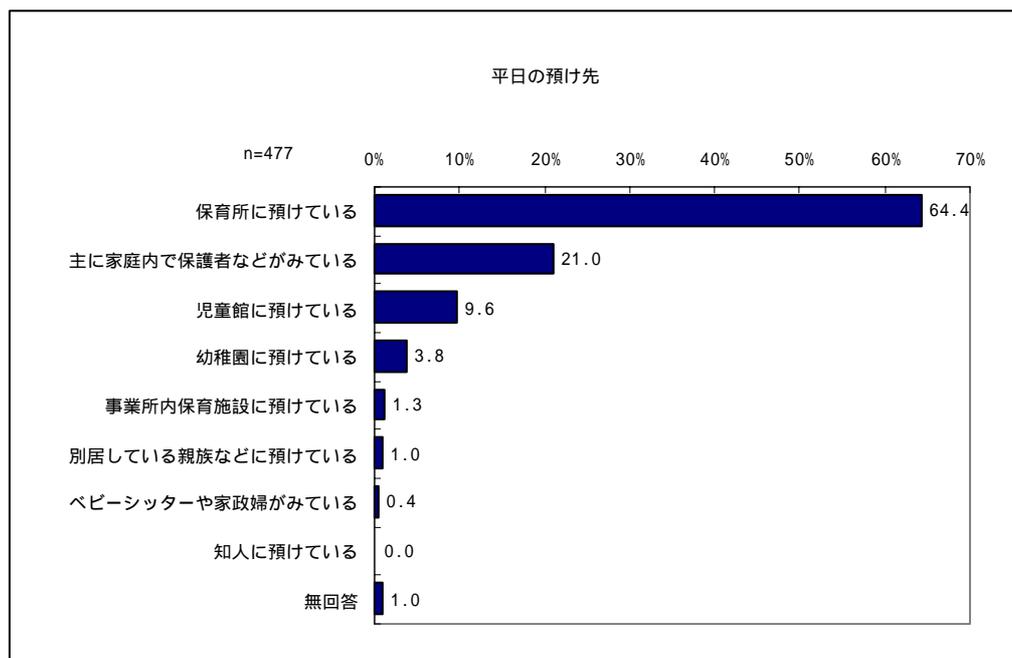
家族構成で「3世代以上の多世代世帯」が7割近くに上ることもあり、子育ての協力者が「いる」割合が9割を超えます。

主な協力者として、「同居している祖父母・親族」を挙げる割合が7割を超え(75.8%)、また、「別居している祖父母・親族」を挙げる割合も4割を超えます(42.6%)。核家族世帯だけでも、「別居している祖父母・親族」が協力者として身近にいる割合がその9割までに上ります。

（2）平日の保育サービス等の利用状況とそれ以外のサービスの利用希望

全体の6割以上が「保育所に預けている」状況であり圧倒的多数を占め、次いで「(保育サービスなどを利用せずに)主に家庭内の保護者がみている」割合が2割ほど(21.0%)という結果です。

このほかでは、「児童館」に預けている割合が約1割(9.5%)で、以下「幼稚園」が3.8%、「事業所内保育施設」が1.3%、「別居している親族(祖父母など)」が1.0%などとなっています。

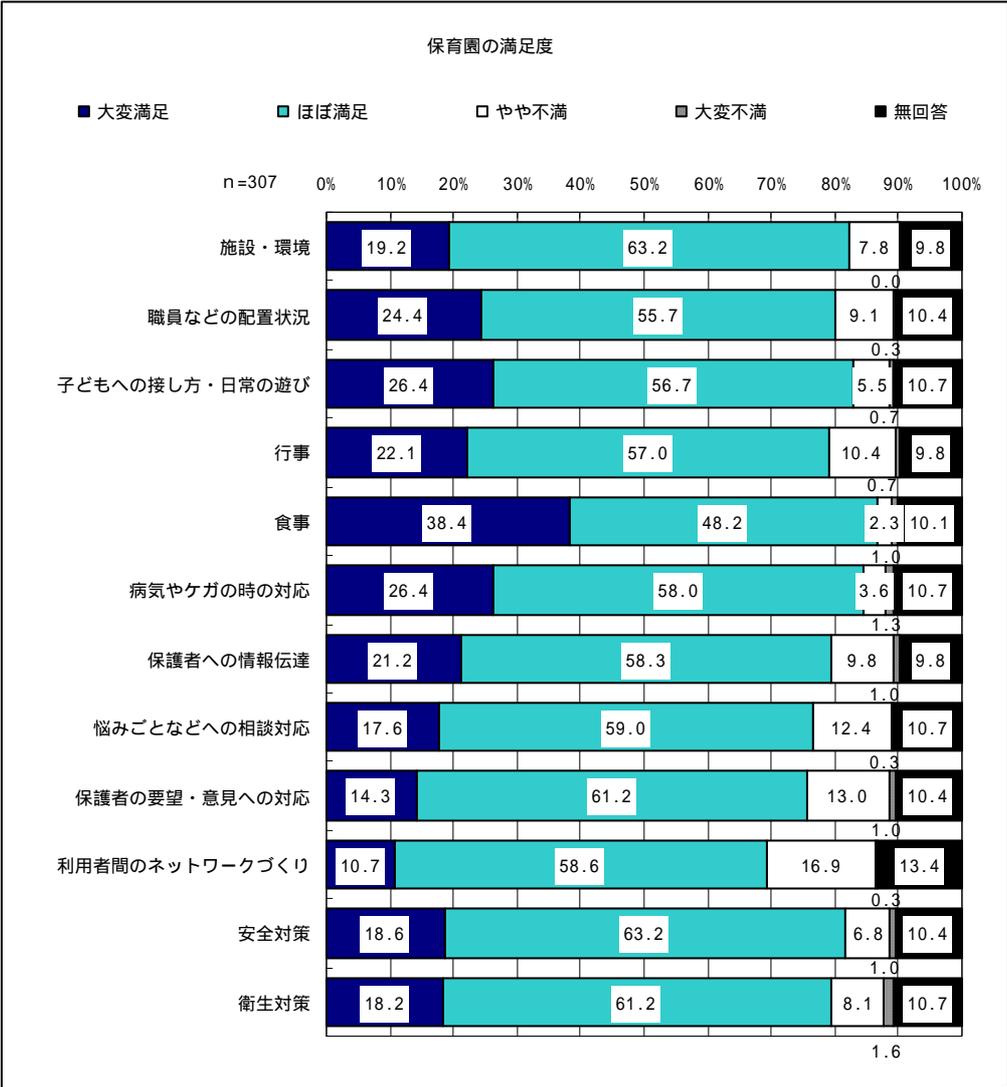


現在利用しているサービス以外で今後の利用希望が「ある」と回答した人（回答者数：92人）にその希望先をたずねた結果では、「保育所」希望が最も多く全体の44.6%を占めます。これに次いで「ファミリーサポートセンター」が28.3%、「幼稚園」が13.0%「児童館」が8.7%などとなっています。

(3) 保育所の満足度

満足度を「大変満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合でみると、「食事」(86.6%)「子どもの接し方・日常の遊び」(83.1%)「安全対策」(81.6%)「病気やケガのときの対応」(81.1%)をはじめ全項目にわたって高率を示しており、保育園に対する満足度は総体的に高い結果となっています。

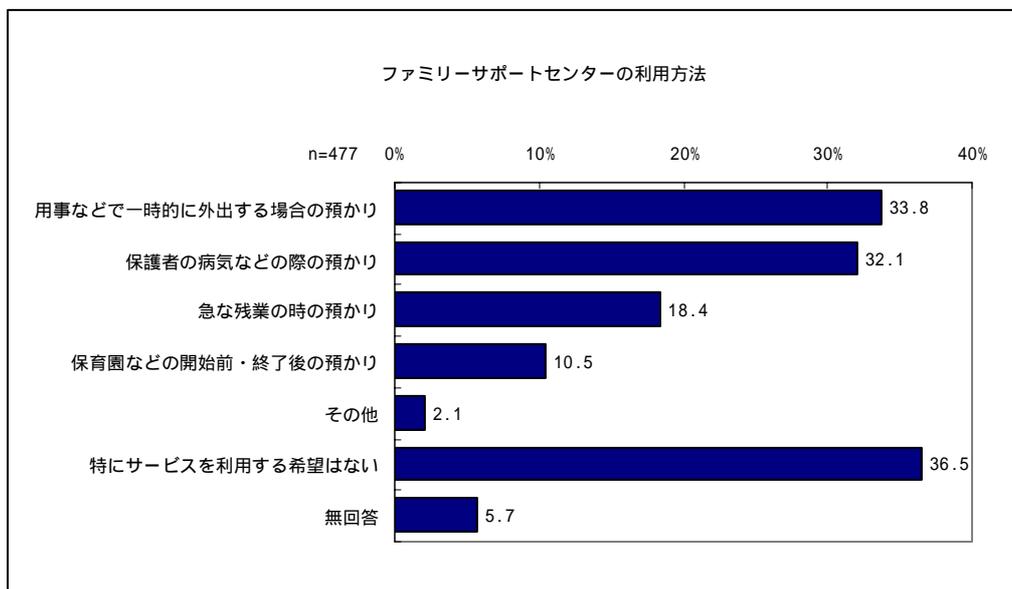
そうした中で、相対的に満足度が低かった内容は、「利用者間のネットワークづくり」であり、保護者間の連携・交流の機会の充実が求められている結果です。



(4) ファミリーサポートセンターの利用希望の内容

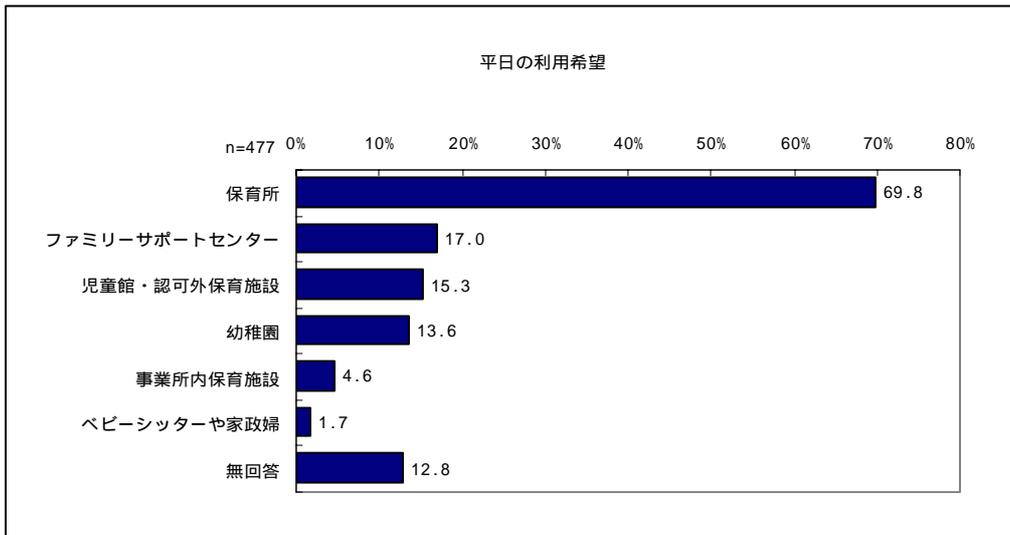
会員登録した地域住民による相互援助活動として「ファミリーサポートセンター」の利用について、「特にサービスを利用する希望はない」との回答は36.5%であり、残りの6割ほどが利用を希望していることになります。

ファミリーサポートセンターを利用したい内容としては、「用事などで一時的に外出する場合の預かり」(33.8%)と「保護者の病気などの際の預かり」(32.1%)を挙げる人がそれぞれ全体の3割を超えるほか、「急な残業の時の預かり」が18.4%、「保育園などの開始前、終了後の預かり」が10.5%という結果です。



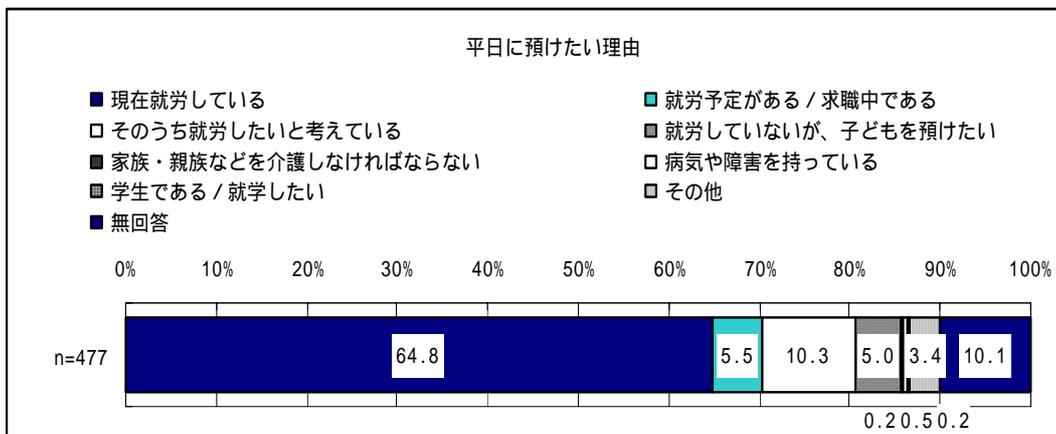
(5) 平日保育サービス等の利用希望

平日に利用したい保育サービスなどの今後の利用意向をみると、「保育所」を挙げる人が約7割まで(69.8%)に上り、現行で保育所に預けている割合(64.4%)を上回ります。これに次いで「ファミリーサポートセンター」の利用希望が17.0%、「児童館や(事業所内保育施設を除く)認可外保育施設」の利用希望が15.3%、「幼稚園」が13.6%などとなっており、問6で現在、「主に家庭内で保護者などがみている」と回答した約2割の人も含め、9割近くが何らかの保育サービスなどを利用したいとする意向が示されます。



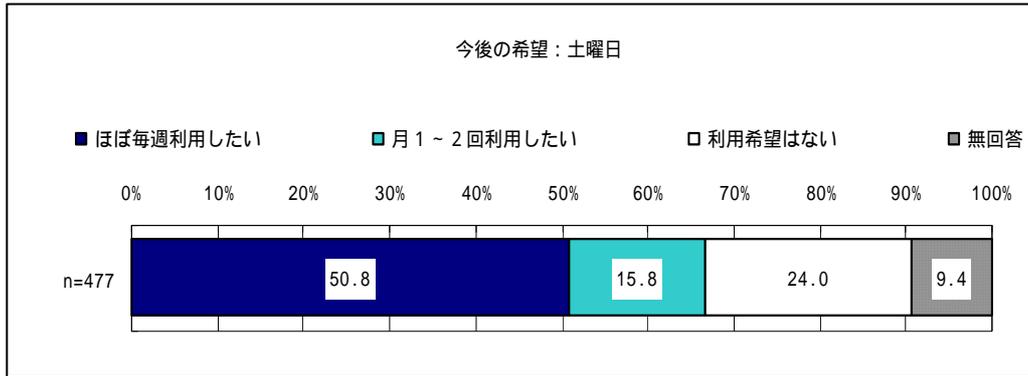
(6) 平日に保育サービスなどを利用したい理由

平日に保育サービスなどを利用したい理由については、「現在就労しているから」が6割を超え(64.8%)最も多く、次いで「そのうち就労したいと考えているから」が10.3%、「就労予定があるから(求職中であるから)」が5.5%と、「就労理由」が8割ほどに上ります。また、「就労していないが子どもを預けたい」が5.0%、「病気や障害をもっているから」が0.5%、「家族・親族などを介護しなければならないから」が0.2%という結果です。



(7) 土日・祝日保育サービス等の利用希望

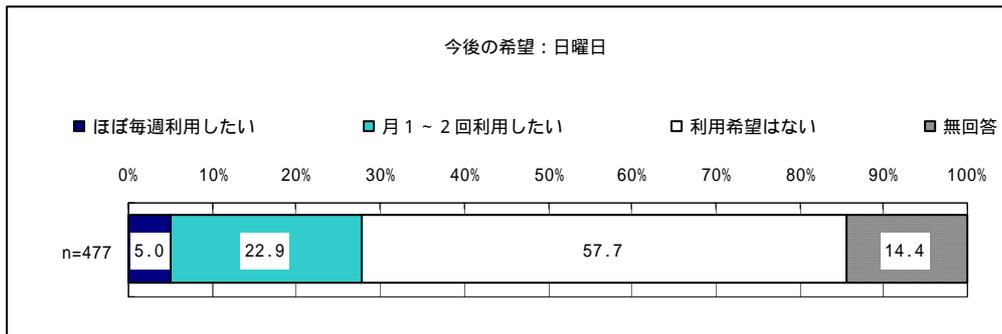
土曜日の保育サービスなどの利用意向をみると、「ほぼ毎週利用したい」との回答が半数ほどを占め、これに次いで「月1~2回利用したい」が15.8%に上ります。一方、「利用希望はない」は2割強にとどまります。利用を希望する時間帯では、「午前中」が最も多く7割を超え(74.6%)、ついで「午後」の利用希望も過半数(55.7%)を占めます。さらに、「夕方から夜間(22時頃まで)」も1割(10.7%)が希望している結果です。



日曜日・祝日の保育サービスなどの利用意向をみると、「利用希望はない」が6割近く(57.7%)に上るものの、利用希望者も無回答を除くと3割近くを占めます。

利用希望回数では、「月1～2回利用したい」が22.9%、「ほぼ毎週利用したい」が5.0%という結果です。

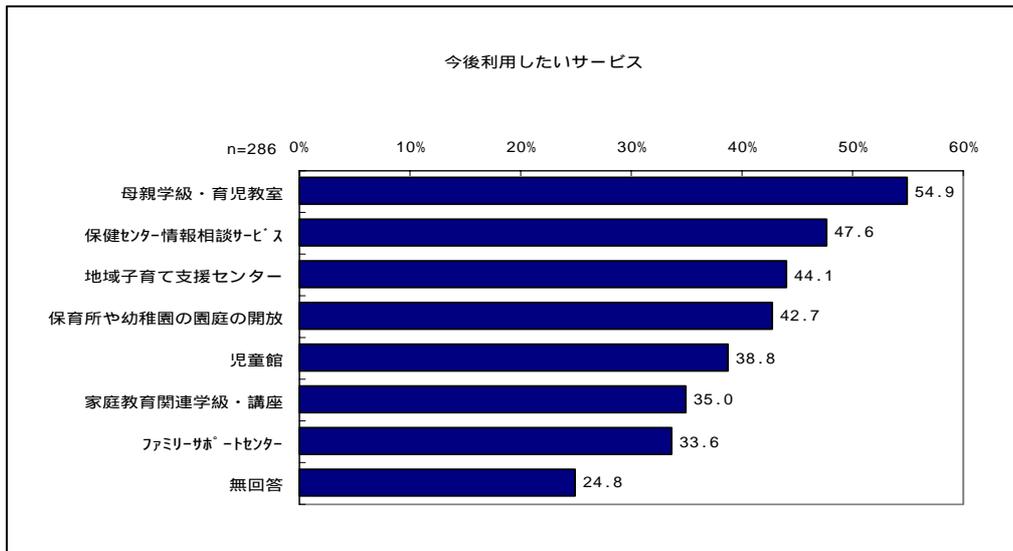
また、利用を希望する時間帯(回答者数：122人)では、「午前中」、「午後」が利用希望者のそれぞれ7割を超えるほか、「早朝」や「夕方から夜間(22時頃まで)」もそれぞれ1割を超える結果です。



(8) 子育て支援サービスの利用希望

子育て支援サービスなどの今後の利用意向(回答者：286人)をみていくと、「母親学級・育児教室」の利用希望が半数を超え54.9%に上るほか、「保健センターの情報・相談サービス」(47.8%)や「地域子育て支援センター」(44.1%)、「保育所や幼稚園の園庭開放」(44.1%)についても4割以上が利用を希望しています。

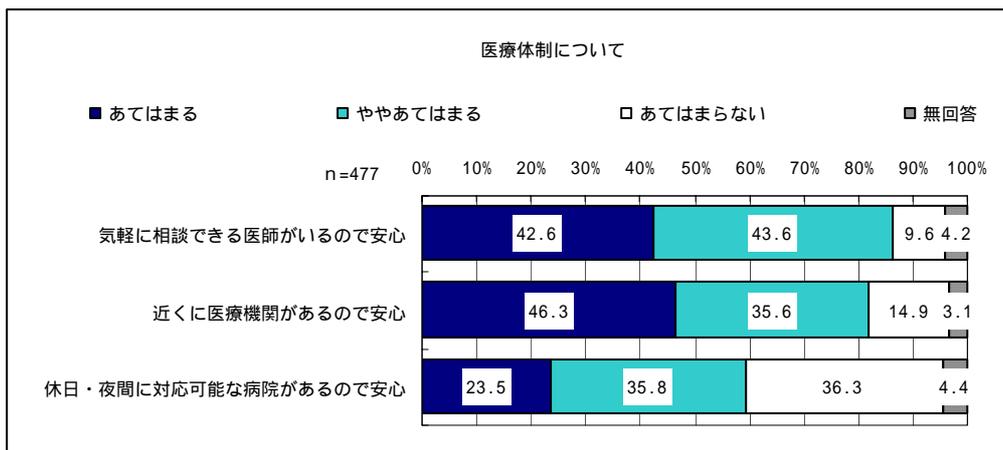
また、「児童館」の利用希望が38.8%、「家庭教育関連学級・講座」が35.0%、さらに「ファミリーサポートセンター」の利用意向も33.6%と3割を超えます。



(9) 医療について

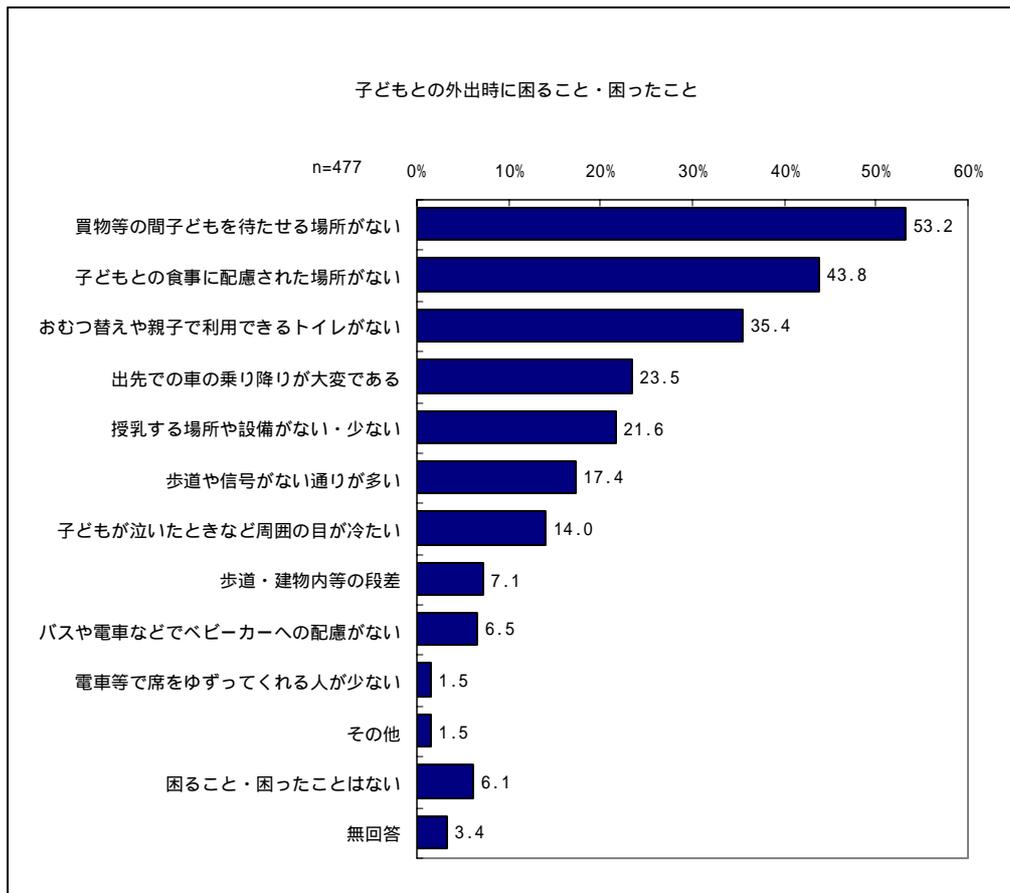
医療体制の現状について、「気軽に相談できる医師がいるので安心」と回答した割合は「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると、全体の8割を超えます（86.2%）。また、「近くに医療機関があるので安心」と回答した割合では、同様に8割を超え（81.9%）。気軽に相談できる医師の存在や身近に医療機関の有無については満足度が高い結果となっています。

一方、「休日・夜間に対応可能な病院があるので安心」という点に関しては「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が半数を超えるものの、36.3%が不安を感じている結果が示されています。



(10) 子どもとの外出で困ったこと

子どもを連れて外出する際に困ること（困ったこと）としては、「買い物や用事をすます間、子どもを待たせる安全な場所がない・少ない」との回答が半数を超える（53.2%）ほか、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない・少ない」が43.8%、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」が35.4%と、これらが上位に挙げられています。

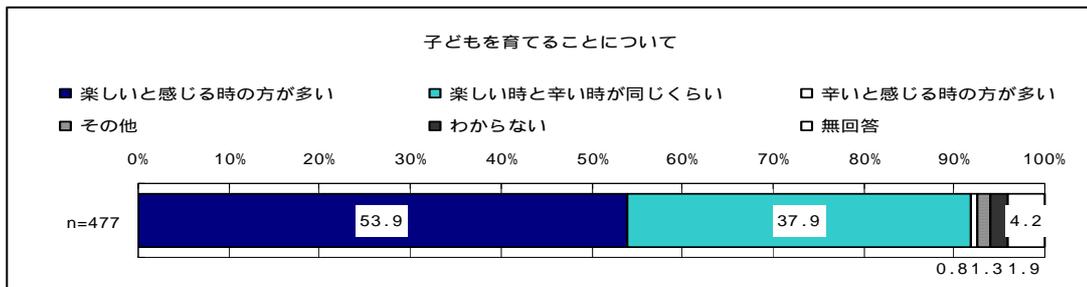


(11) 子育てにおいて感じること

子育てをする中で、「よく感じる」と回答した割合が高い項目は、「子育てにかかる経済的負担」（30.6%）、「自分の時間がとれず、自由がない」（25.2%）、「子どもが思うようにならないとき、つい手をあげたくなる」（16.1%）、「子育てをするには家が狭すぎる」（13.8%）、「夫婦で楽しむ時間がない」（12.8%）、「子育てによる身体の疲れを感じる」（10.5%）といった順位であり、これに「やや感じる」と回答した割合を合わせてみていくと、経済的な負担の大きさや自分だけの自由な時間の少なさ、あるいは子育てでのイライラ感を感じている人がそれぞれ7割ほどに上る結果です。

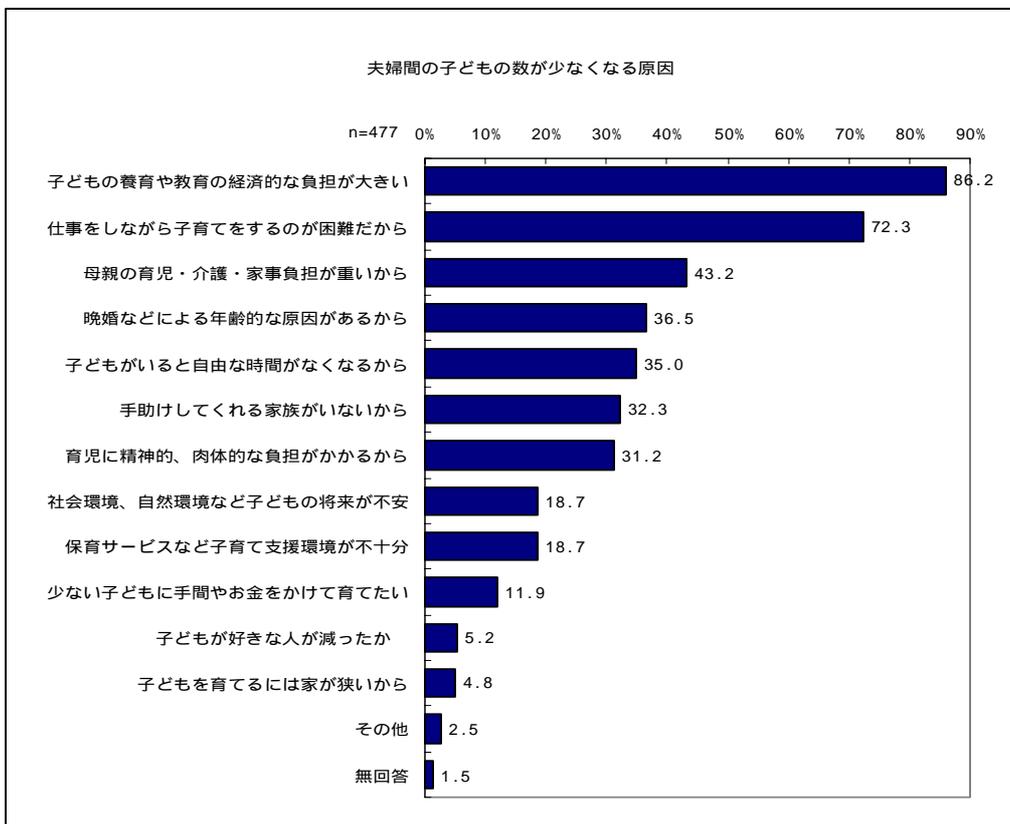
(12) 子育てについて感じる事

子育てについて「楽しいと感じる時の方が多い」と回答した人が半数を超え53.9%に上り、「楽しい時と辛いと感じる時が同じくらい」が37.9%、「辛いと感じる時の方が多い」がわずかに0.8%という結果であり、先述の間21の結果にあるような子育ての負担感や不安を感じつつも、全体として子育ての楽しさと感じている人の割合が高い結果となっています。



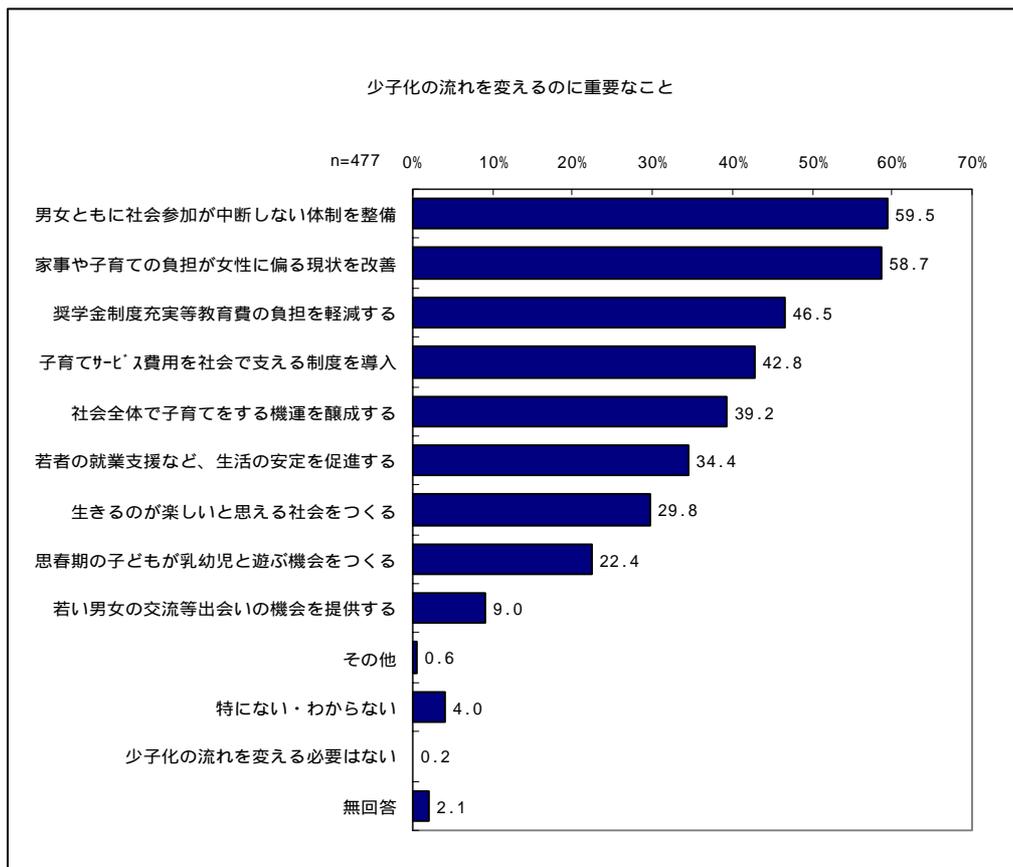
(13) 夫婦間の子ども数が少なくなった理由について

近年の少子化の要因として、既婚者の子ども数の減少、いわゆる夫婦出生力の低下が言われていますが、その理由に関しては、「子どもの養育や教育の経済的な負担が大きい」ことを挙げる人が8割を超えるほか、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」も7割を超えており、子育て中の立場から特に経済的負担や仕事と子育ての両立の難しさが強く実感されている結果となっています。



(14) 少子化対策に必要なこと

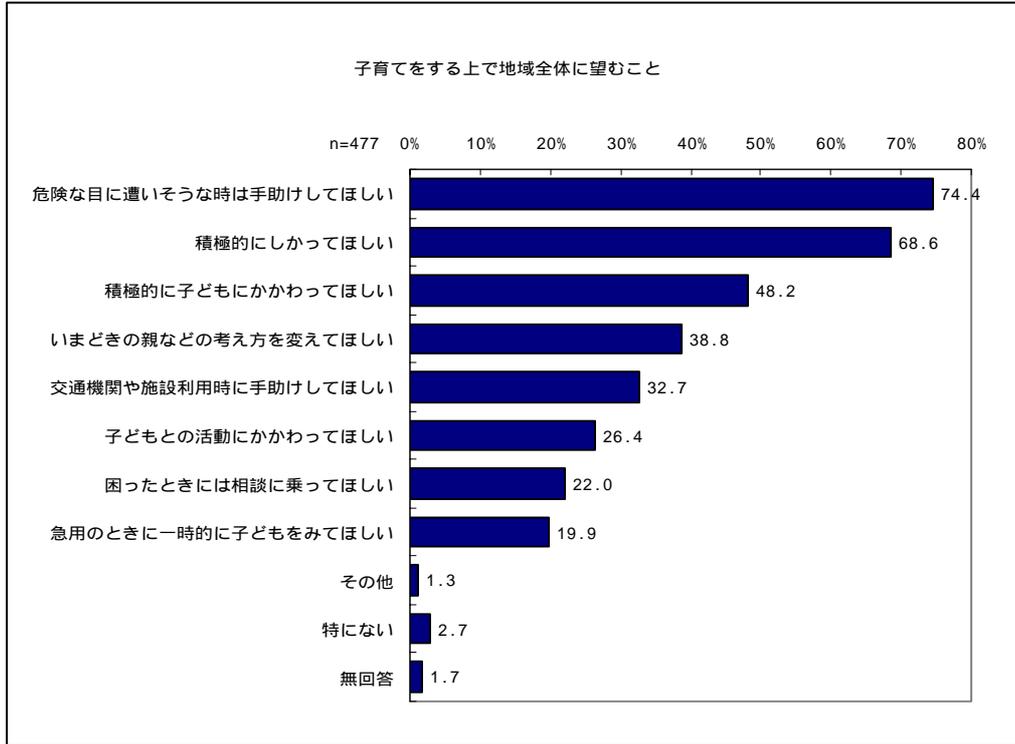
少子化の流れを変えるために必要なこととしては、「男女がともに仕事や社会参加が中断されずに子育てができる体制を整備する」と「家事や子育ての負担が女性に偏る現状を改善する」の2点をそれぞれ全体の6割近くの人が挙げており、就労やその他の社会参加活動と子育てを両立できる環境づくり、家事や子育てへの男女平等意識の取り込みなどが強く求められている結果です。



(15) 子育てに関する地域への要望

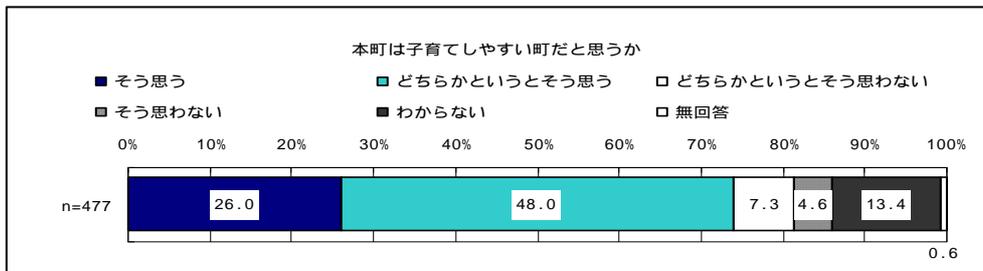
子育てに関して、地域全体に要望する事項としては、「子どもが危険な目に遭いそうに時は手助けや保護をしてほしい」(74.4%)と「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは、積極的にしかってほしい」(68.6%)が上位に挙げられ、この2点についてそれぞれ7割前後の保護者が特に強く求めている結果です。

これらに次いで、「子どもを対象とした遊びや活動などの機会に積極的にかかわってほしい」ことを約半数(48.2%)が、また「子どもがうるさいとか、いまどきの親などと一方的な考え方を変えてほしい」(38.8%)、「子ども連れで交通機関や施設を利用する時に困っていたら手助けしてほしい」(32.7%)についても3割以上が求めています。



(16) 子育てのしやすさに対する町の評価

総合的に判断した場合、太良町を子育てしやすいまちだと「思う」割合が26.0%、「どちらか」といって「思う」が48.0%、「どちらか」といって「思わない」が7.3%、「思わない」が4.6%という結果であり、肯定的な意見が全体の7割を超えます。

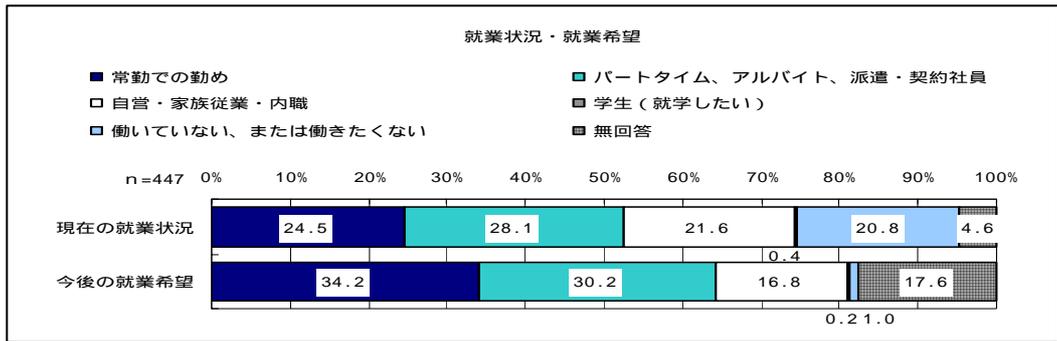


(17) 現在の就労状況と今後の意向について

母親の就労状況をみると、「常勤での勤め」が24.5%、「パートタイム、アルバイト、派遣・契約社員」が28.1%と「勤め」が半数以上を占めます。また、「自営・家族従業・内職」が21.6%を占めます。一方、「働いていない」割合が2割を占めます（20.8%）。

また、今後の就労意向については、「常勤での勤め」が34.2%、「パートタイム、アルバイト、派遣・契約社員」が30.2%と、今後勤めを希望している割合が6割を超えます。

その一方で、「働かない」はわずかに1.0%であり、現在、未就労の女性の大半が今後の就労を希望している結果です。

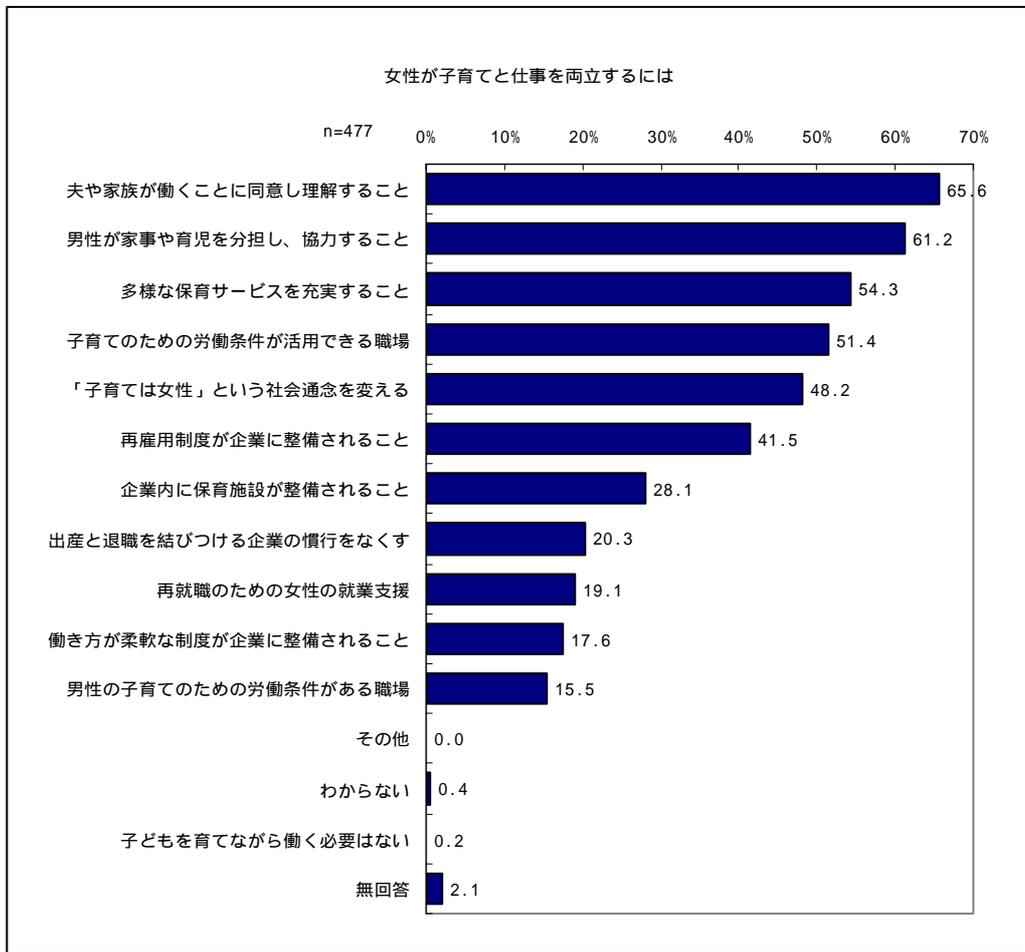


(18) 女性の子育てと仕事の両立に必要なもの

女性(母親)が子育てをしながら働くために必要なこととしては、「夫や家族が働くことに同意し理解すること」(65.6%)や「男性が家事や育児を分担し、協力すること」(61.2%)を求める意見がそれぞれ6割を超えます。

また、「多様な保育サービスを充実すること」(54.3%)、「勤務時間や制度など子育て者に配慮があり、それが実際に活用できる職場環境」(51.4%)についても半数以上が挙げています。

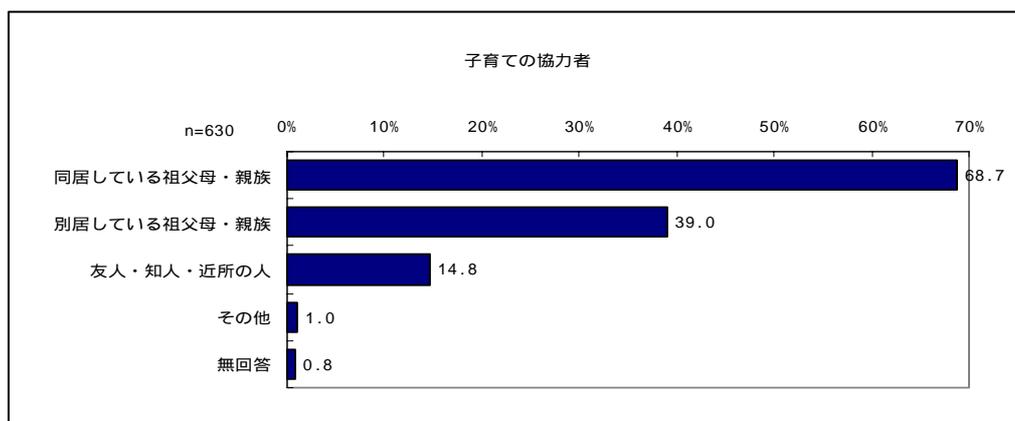
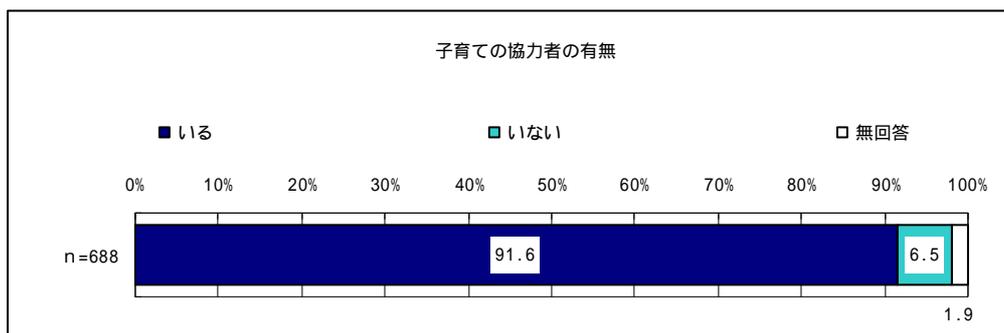
さらに、「子育ては女性がするものという固定的な社会通念を変えること」を挙げる人もほぼ半数(48.2%)に上り、子育てに関して男女平等意識、男女共同参画意識の必要性を挙げる人も少なくありません。



2 小学校児童アンケート

(1) 子育ての身近な協力者

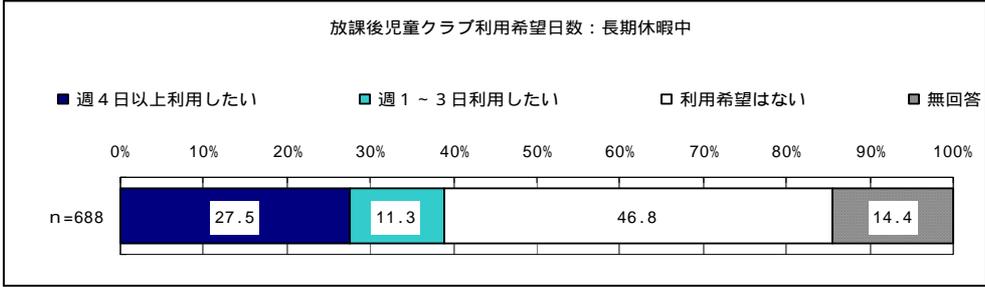
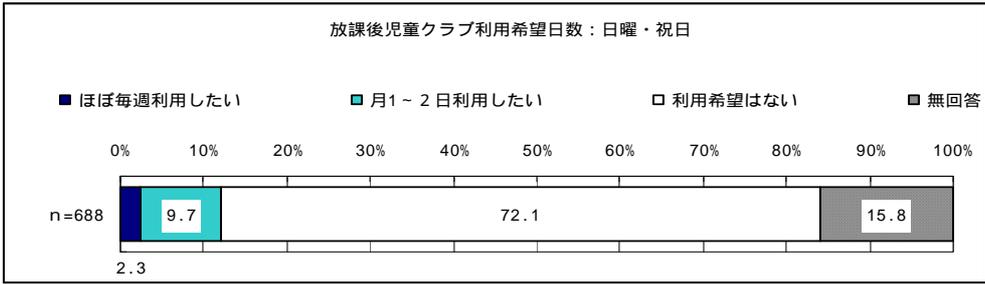
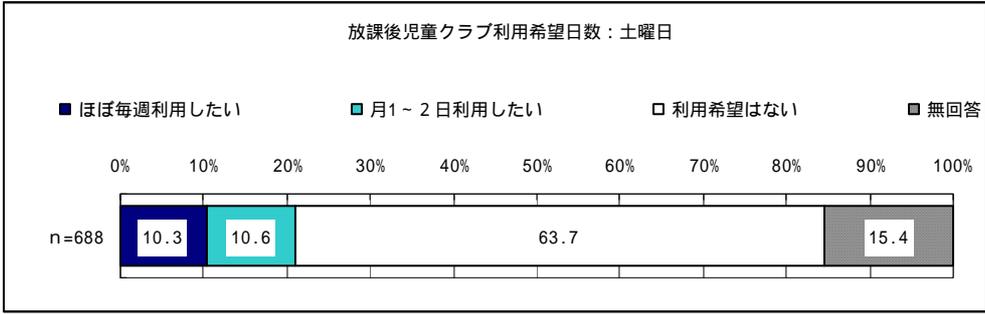
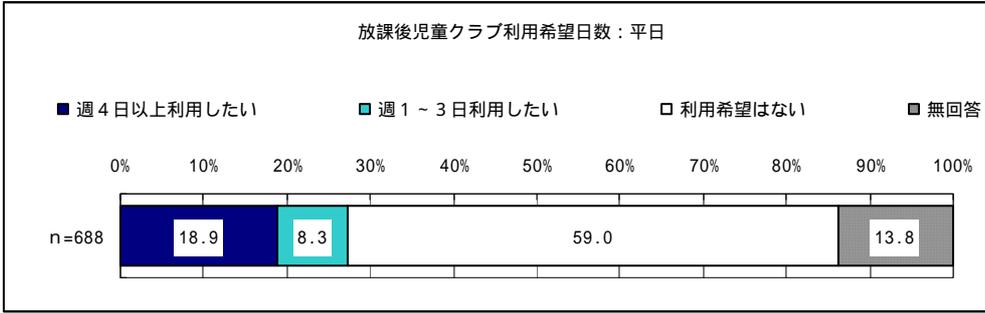
気軽に子育てに協力してくれる人の有無では、9割を超える人が「いる」と回答し、「いない」は6.5%にとどまります。
 主な協力者としては、「同居している祖父母・親族」が68.7%、「別居している祖父母・親族」が39.0%、「友人・知人・近所の人」が14.8%という結果です。



(2) 放課後児童クラブの利用希望

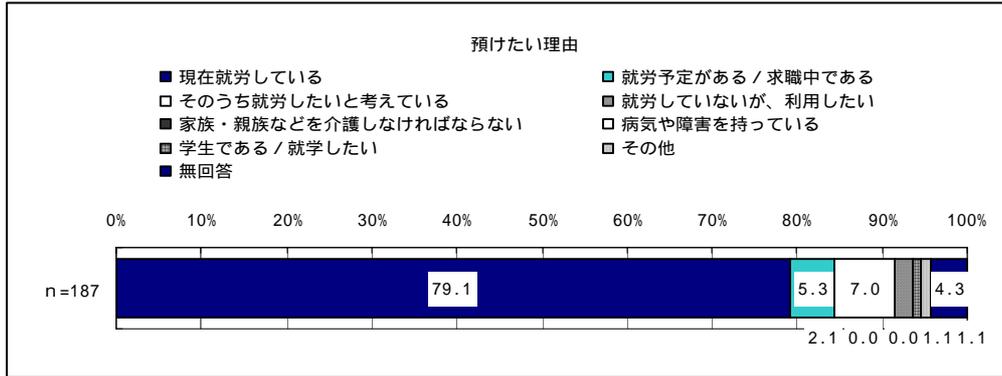
放課後児童クラブの利用希望について、平日の場合には「週4日以上利用したい」が18.9%、「週に1～3日利用したい」が8.3%であり、利用希望者は全体の27%ほどに上ります。
 土曜日の場合には、「ほぼ毎週利用したい」が10.3%、「月に1～2日利用したい」が10.6%と、利用希望者は2割を超えます。
 日曜日・祝日では、「ほぼ毎週利用したい」が2.3%、「月に1～2日利用したい」が9.7%で利用希望者は1割ほどとなっています。
 夏休みなどの長期休暇の場合には、「週4日以上利用したい」が27.5%とほぼ4人に1人が利用を希望しているほか、「週に1～3日利用したい」が11.3%に上り、全体の4割が利用希望を示しています。

また、放課後児童クラブの受入れ年齢について、「6年生まで」を希望する割合が平日、土曜日、日曜日・祝日、長期休暇のいずれの場合にも最も多い比率となっています。



(3) 放課後児童クラブを利用したい理由

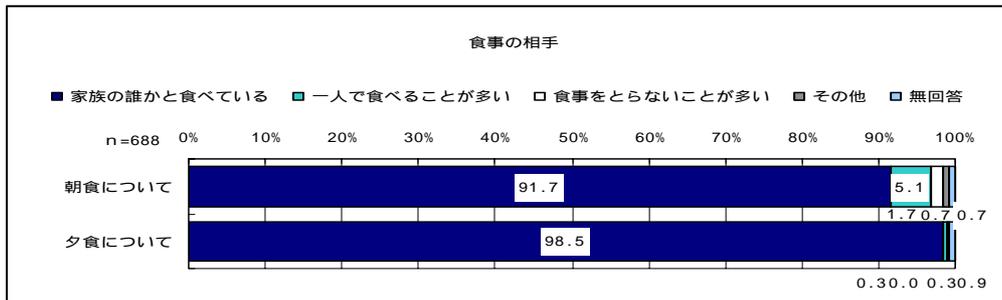
放課後児童クラブを利用したい理由としては、「現在就労しているため」が圧倒的に多く全体の8割ほどに上ります。また、「そのうち就労したいと考えているから」が7.0%、「就労予定である(求職中である)から」が5.3%と、就労理由が圧倒的多数を占めます。



(4) 子どもの食事の様子

一般に子どもの欠食や個食化の傾向が言われている中で、こどもの食事状況をみると、朝食の場合、「家族のだれかと食べている」が9割を超え、「一人で食べることが多い」は5.1%、「食事をとらないことが多い」はわずかに1.7%という結果です。

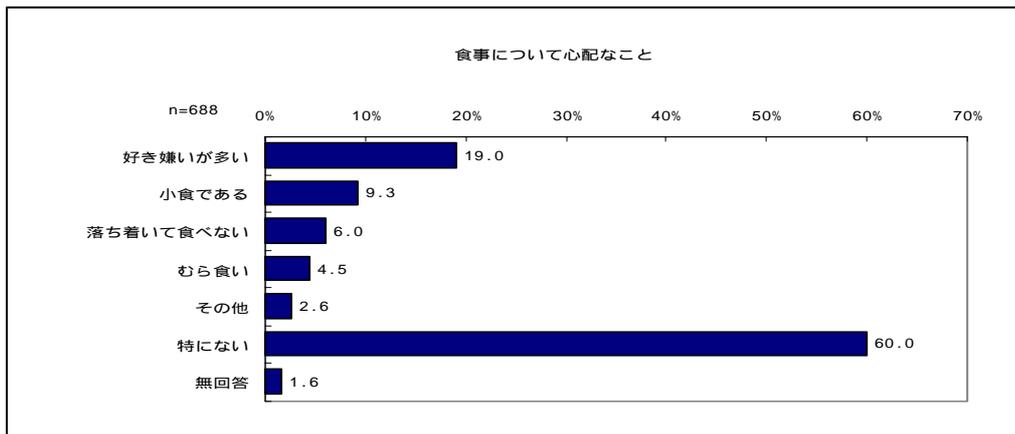
夕食の場合も、「家族のだれかと食べている」が圧倒的多数を占め98.5%に及び、「一人で食べるが多い」はわずか0.3%という結果です。



(5) 子どもの食事に関する心配

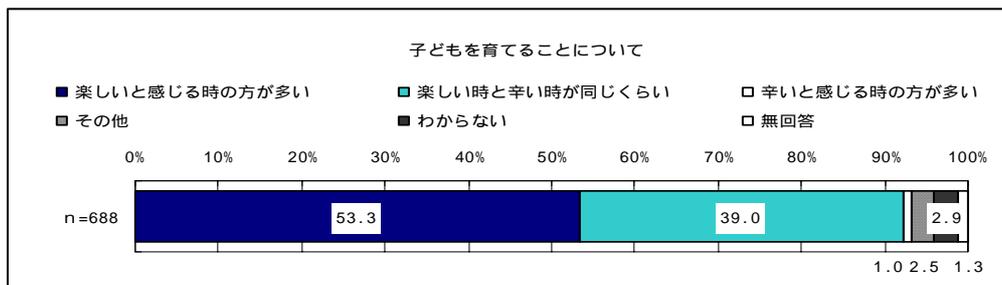
食事に関する不安について「特にない」が6割に及びますが、残りの4割ほどが何らかの不安をもっている結果です。

具体的には「好き嫌が多い」を挙げる人が19.0%、「小食である」が9.3%、「落ち着いて食べない」が6.0%などという結果です。



(6) 子育てについて思うこと

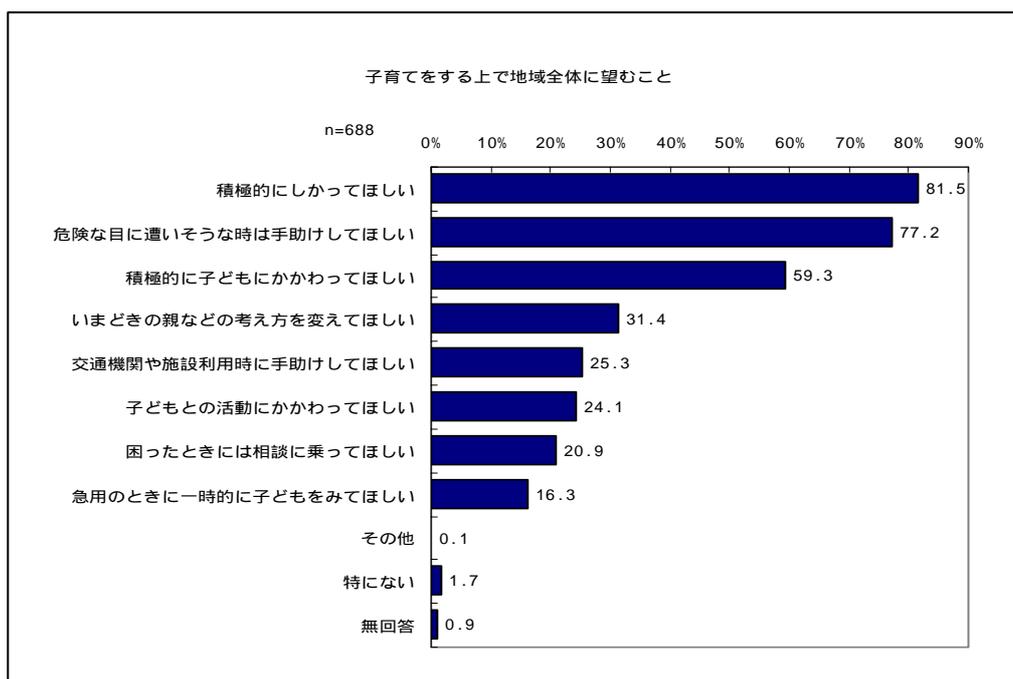
子育てについて「楽しいと感じる時の方が多い」と回答した人が53.3%と半数を超え、「楽しい時と辛いと感じる時が同じくらい」が39.0%、「辛いと感じる時の方が多い」が1.0%となっており、就学前児童アンケートとほぼ同様の結果が示されています。



(7) 子育てに関する地域への要望

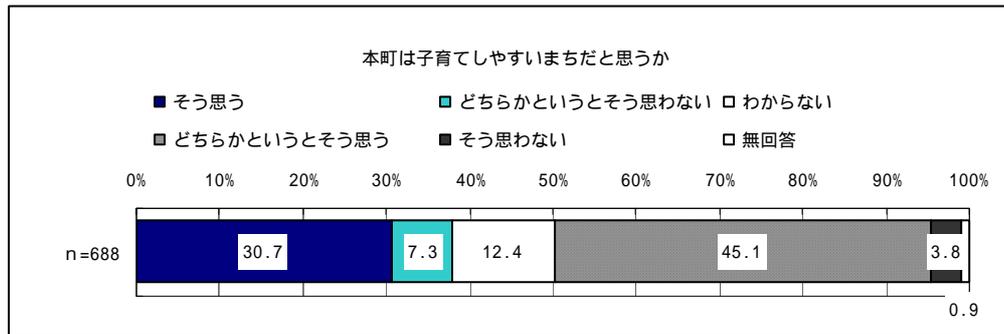
子育てに関して、地域全体に対する要望としては、「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは、積極的にしかってほしい」を挙げる人が81.5%、「子どもが危険な目に遭いそうに時は手助けや保護をしてほしい」が77.2%と、この2点について8割前後の保護者が強く求めています。

これらに次いで、「子どもがうるさいとか、いまどきの親などと一方的な考え方を変えてほしい」が31.4%、「子ども連れで交通機関や施設を利用する時に困っていたら手助けしてほしい」が25.3%、「子どもを対象とした遊びや活動などの機会に積極的にかかわってほしい」が24.1%と、数値の多寡あるにせよ、就学前児童アンケートと同じ項目が上位に挙げられています。



(8) 子育てのしやすさに対する町の評価

太良町が子育てのしやすいまちであるかについて「そう思う」が30.7%、「どちらかという
 そう思う」が7.3%で、“肯定派”が4割近くに上る一方で、「どちらかというと思わない」
 が12.4%、「そう思わない」が45.1%にも上り、“否定派”が6割近くを占める結果です。



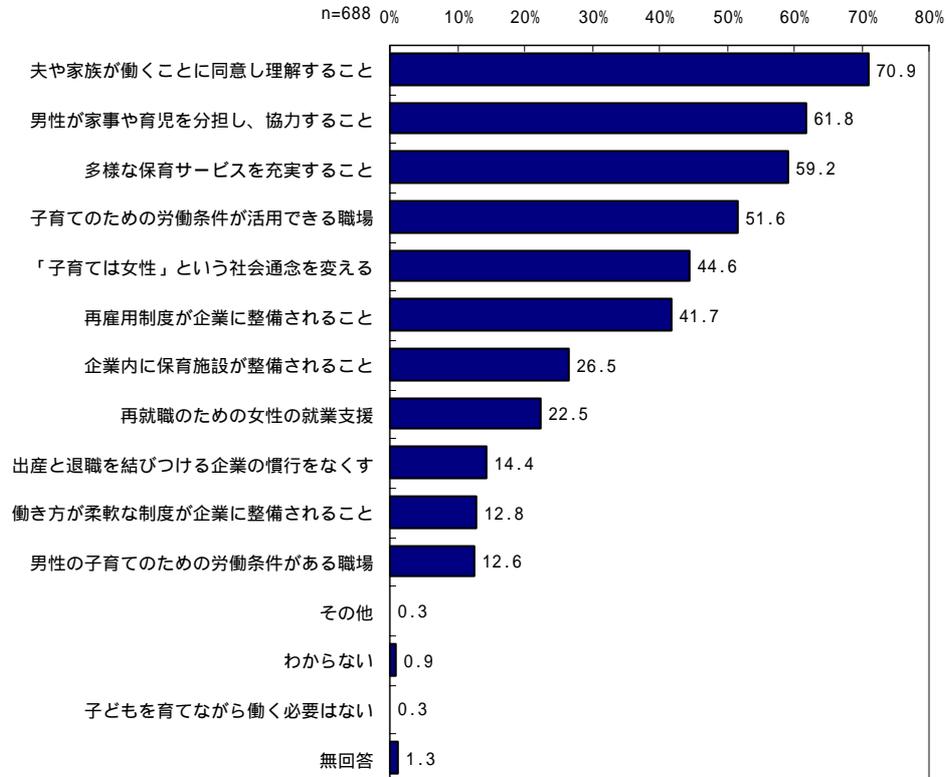
(9) 女性の子育てと仕事の両立に必要なもの

女性（母親）が子育てをしながら働くために必要なこととしては、「夫や家族が働くことに同意し理解すること」を挙げる人が70.9%、「男性が家事や育児を分担し、協力すること」が61.8%、「多様な保育サービスを充実すること」が59.2%、「勤務時間や制度など子育て者に配慮があり、それが実際に活用できる職場環境」が51.6%という結果であり、就学前児童アンケートと同様に、配偶者など周囲の理解や多様な保育サービスの充実、育児協業制度など子育て支援に対する職場の理解が相対的に強く求められている結果です。

さらに、「子育ては女性がするものという固定的な社会通念を変えること」を挙げる人が44.6%と4割を超えます。

女性が子育てと仕事を両立するには

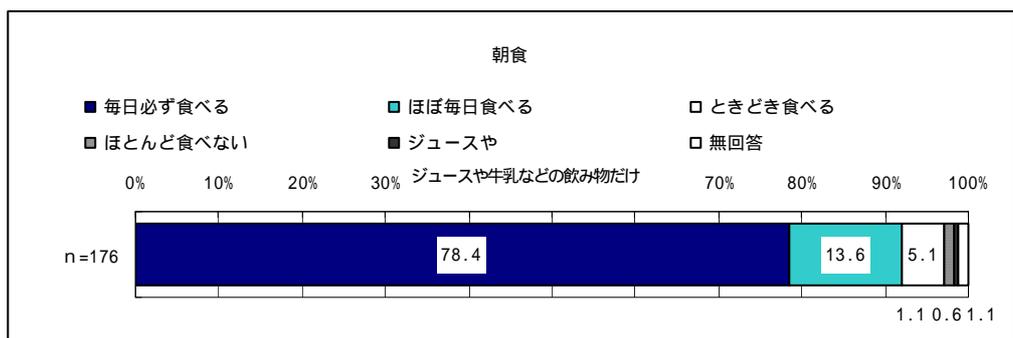
n=688



3 中学生・高校生アンケート

(1) 朝食の状況

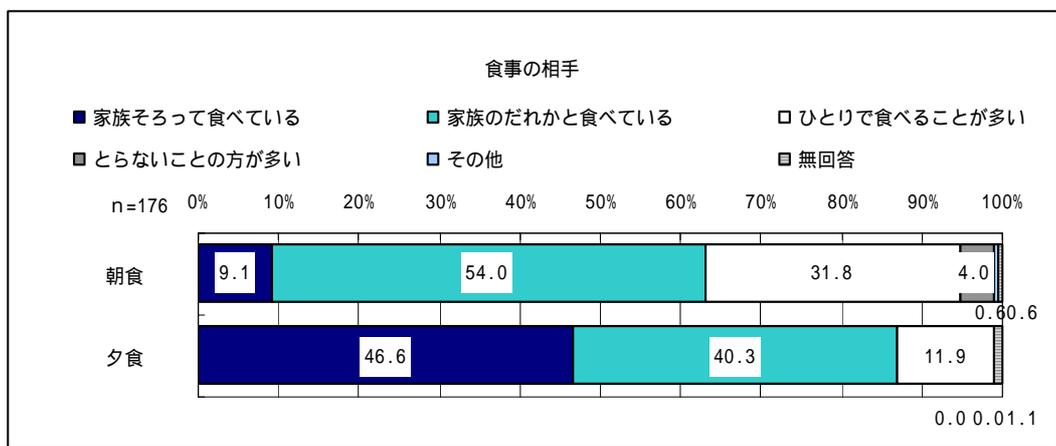
朝食の摂り方について、「毎日必ず食べる」割合が78.4%に上り、「ほぼ毎日食べる」が13.6%、「ときどき食べる」が5.1%、「ほとんど食べない」が1.1%、「ジュースや牛乳などの飲み物だけ」が0.6%という結果であり、欠食率は極めて低い状況です。



(2) 食事の様子

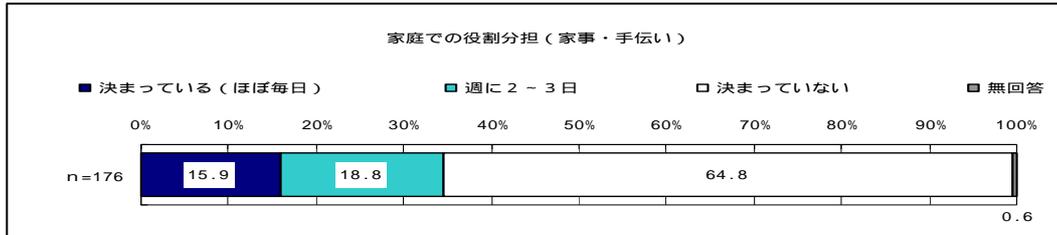
食事を摂る場合の状況について、朝食の場合、「必ず家族そろって食べている」が9.1%、「家族のだれかと食べている」が54.0%という結果である一方で、中・高生の31.8%までが「ひとりで食べることが多い」と回答しているほか、「とらないことの方が多い」が4.0%という状況です。

夕食では、「家族そろって食べている」が最も多く46.6%に上るほか、「家族のだれかと食べている」も40.3%と4割を超えており、中高生の9割近くは家族と夕食を摂っている状況がうかがえます。その中で、「一人で食べることが多い」との回答が約1割(11.9%)を占めます。



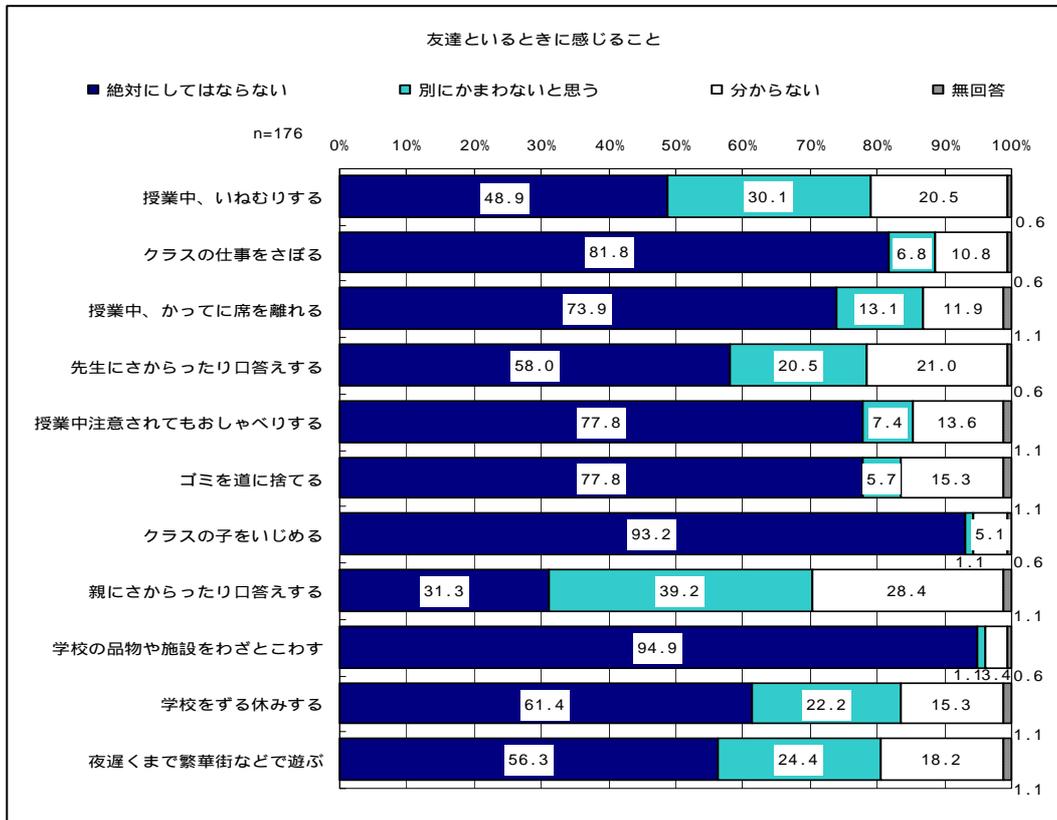
(3) 家庭での役割分担の状況について

中高生の場合、家庭の中での役割分担(家事、手伝い)が「決まっていない」割合が高く全体の6割を超えます(64.8%)。しかし、中学生に限ってみていくと、「きまっている(ほぼ毎日)」が女子では2割、また「週に2~3日」との回答が男子の3割近くに上るなど、役割分担を決めている割合も決して少なくない結果です。



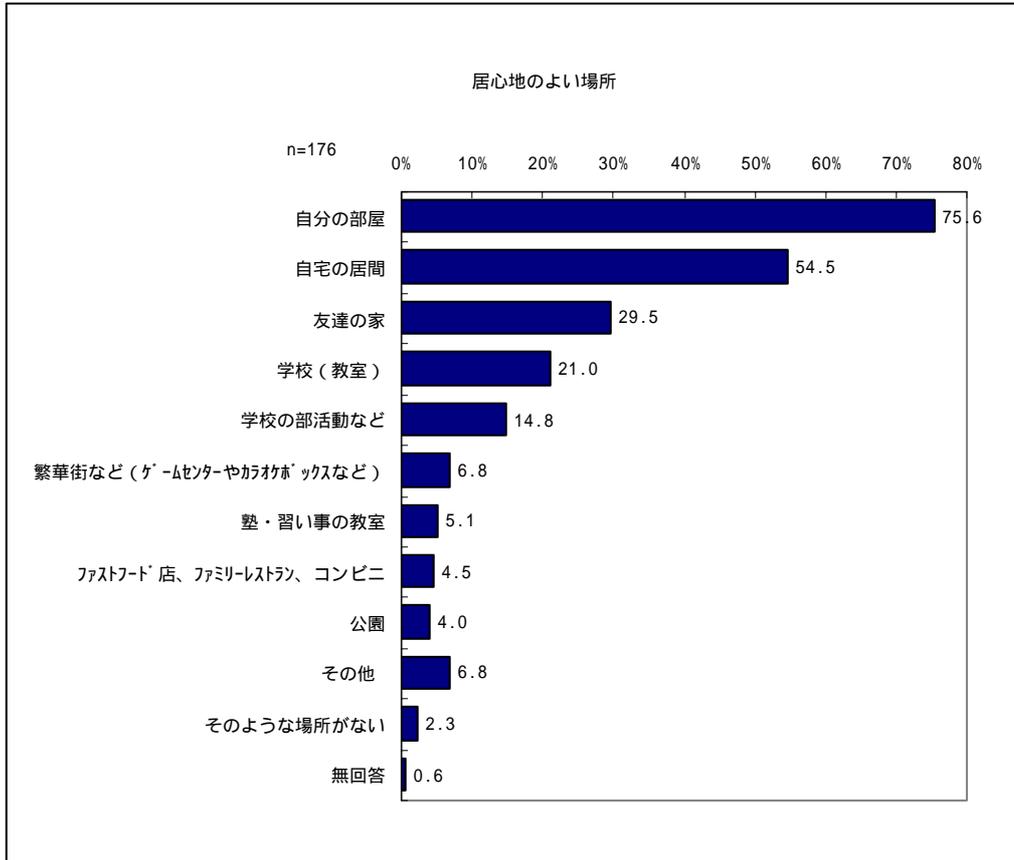
(4) 規範意識について

中高生の規範意識を「絶対にしてはならないこと」の割合で見ると、「学校の品物や施設をこわすこと」(94.9%)や「クラスの仕事をさぼる」(81.8%)をはじめとして全体的に規範意識としては高い結果が示されています。そうした中で、“親にさからったり口答えをする”ことについては「別にかまわない」との回答が39.1%と「絶対にしてはならないこと」の割合(31.3%)を上回っているほか、“授業中、いねむりをする”についても「別にかまわない」が30.1%に上ります。



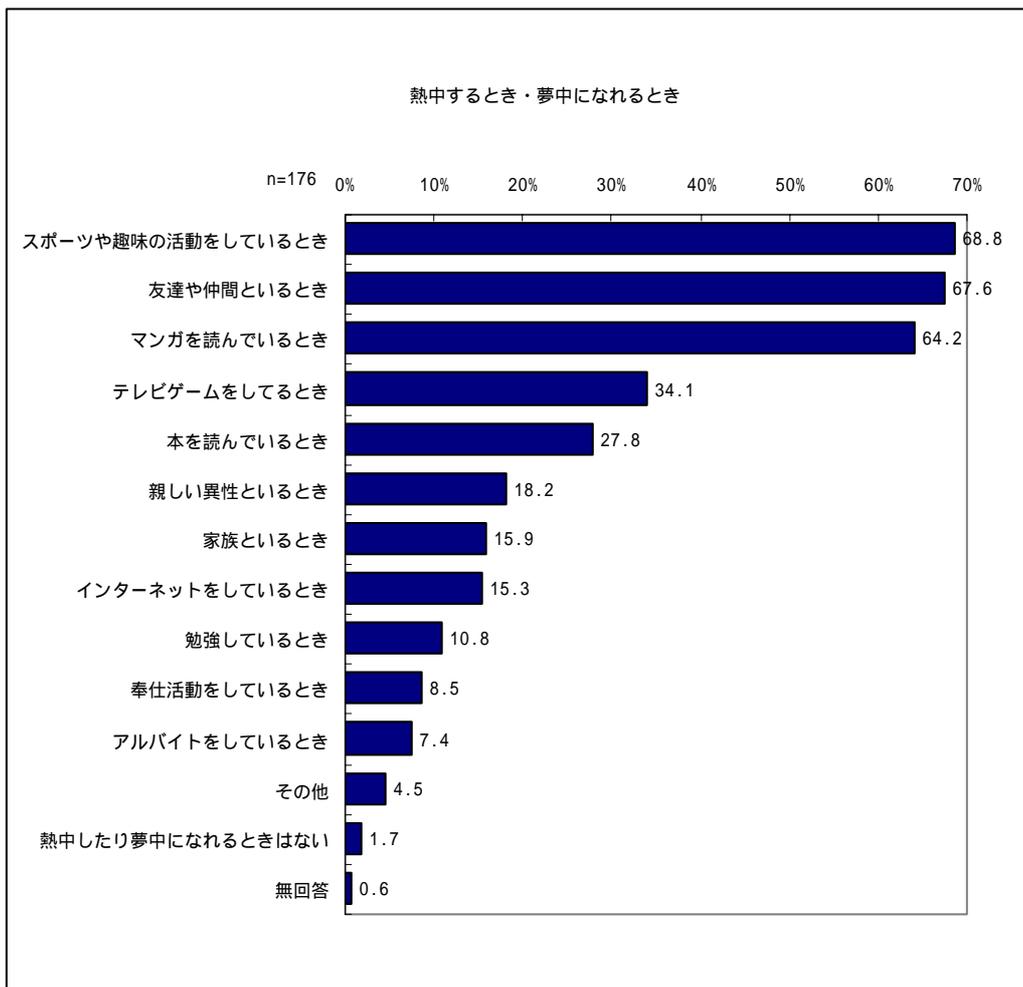
(5) 居心地のよい場所について

中高生にとって、居心地のよい場所としては「自分の部屋」を挙げる割合が75.6%にまで上り圧倒的に多く、次いで「自宅の居間」(54.5%)、「友だちの家」(29.5%)が挙げられています。



(6) 熱中したり夢中になれること

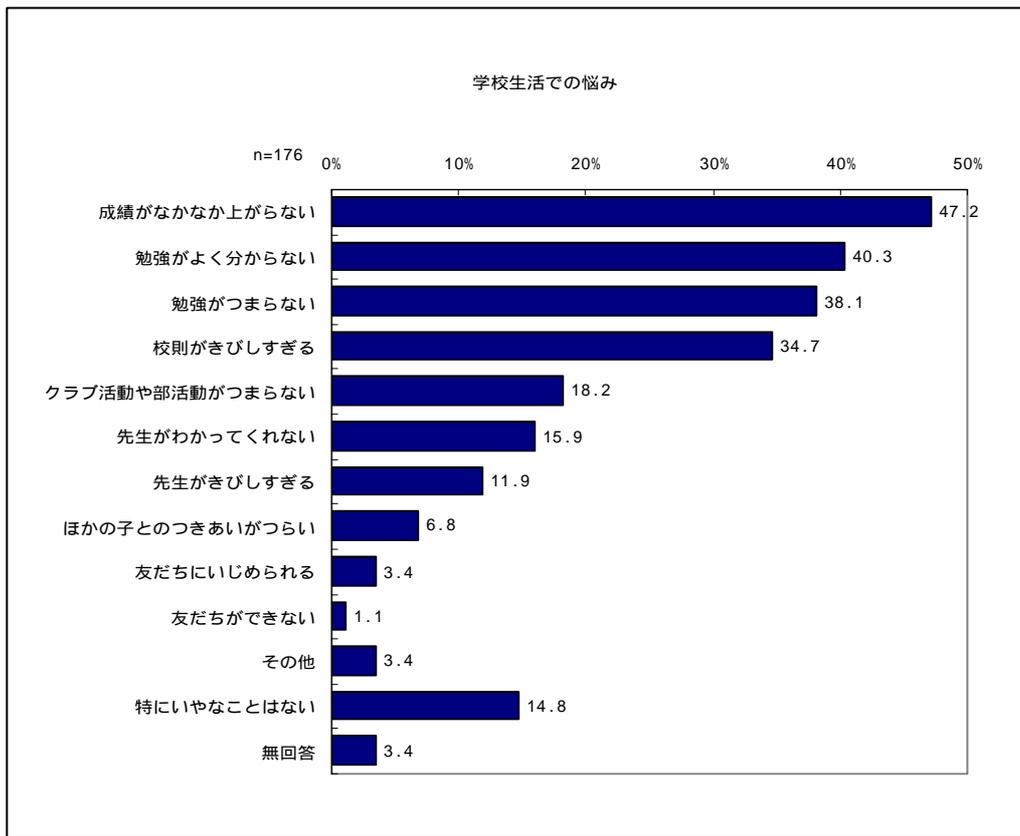
熱中したり夢中になることに関して、「スポーツや趣味の活動をしているとき」(68.8%)、「友だちや仲間といるとき」(67.6%)、「マンガを読んでいるとき」(64.2%)を挙げる割合がそれぞれ6割を超える結果です。
その一方で、「熱中したり、夢中になれるときはない」はわずかに1.7%にとどまります。



(7) 学校生活で困ること、嫌なこと

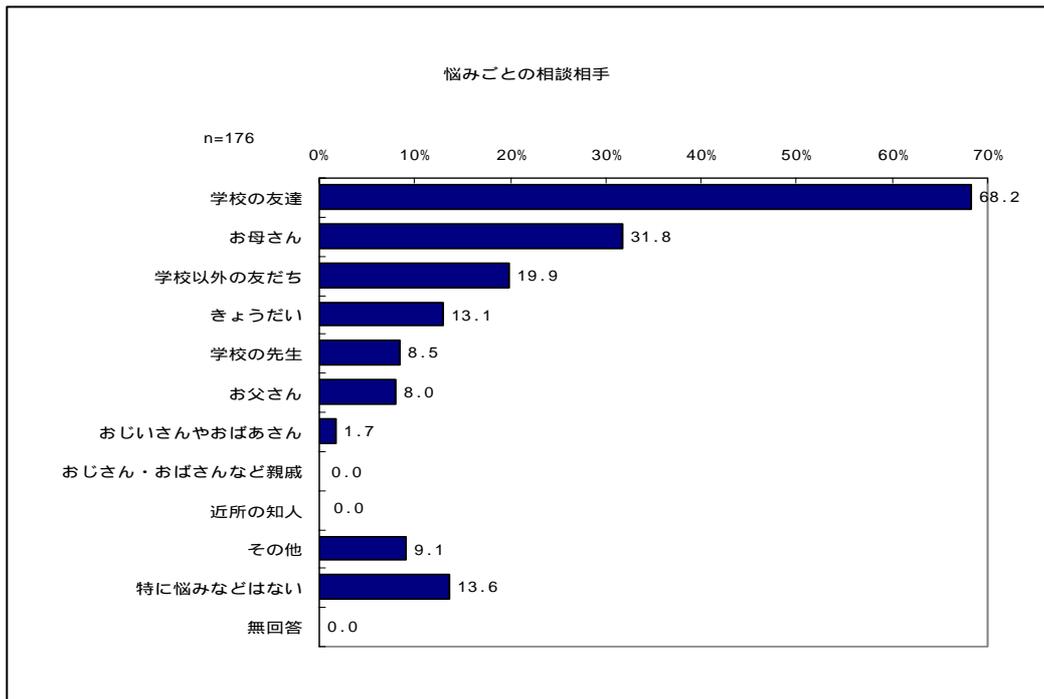
学校生活を送る上での悩みなどに関しては、「成績」(47.2%)や「勉強の内容」(40.3%)が上位に挙げられ、次いで「勉強がつまらない」が38.1%、「校則が厳しすぎる」が34.7%という結果です。

このほか、「クラブ活動・部活動がつまらない」(18.2%)、「先生がわかってくれない」(15.9%)、「先生が厳しすぎる」(11.9%)などが挙げられています。



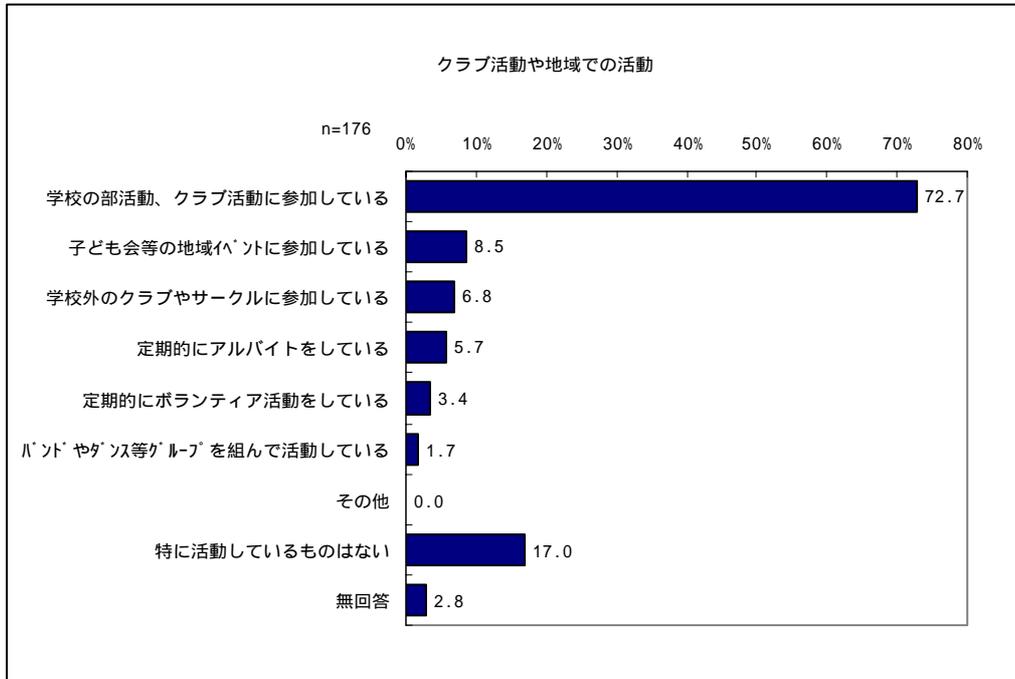
(8) 悩みを相談する相手

悩みや困ったことがある場合の相談相手としては、「学校の友だち」を7割ほど(68.2%)が挙げ、次いで「母親」を3割ほど(31.8%)が挙げている結果です。そのほかでは、「学校以外の友だち」が19.9%、「きょうだい」が13.1%、「学校の先生」が8.5%などとなっています。



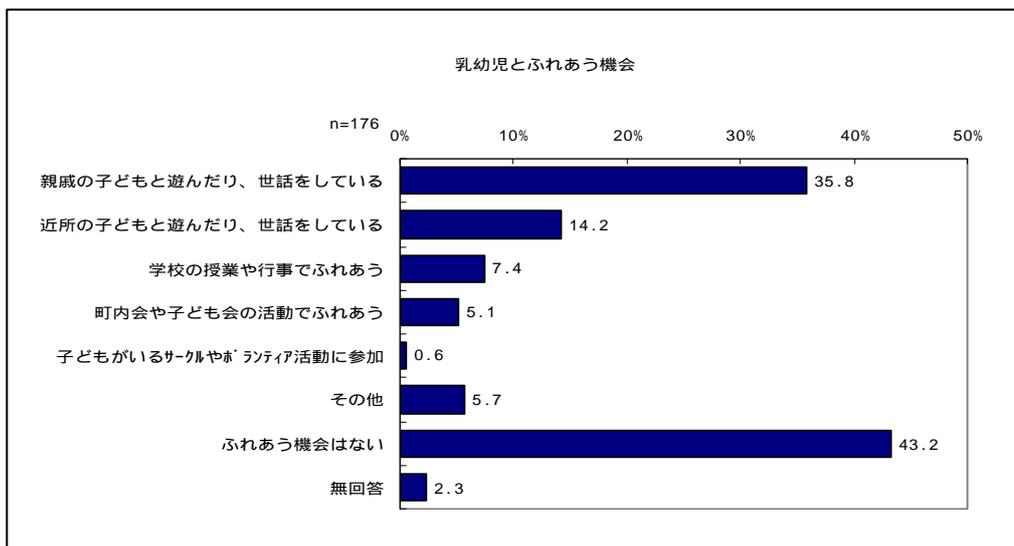
(9) クラブ活動や地域での活動

クラブ活動や地域活動の状況を見ると、「学校の部活動、クラブ活動に参加している」が72.7%に上るなど、何らかの活動に参加している割合が高く「特に活動しているものはない」は17.0%にとどまります。



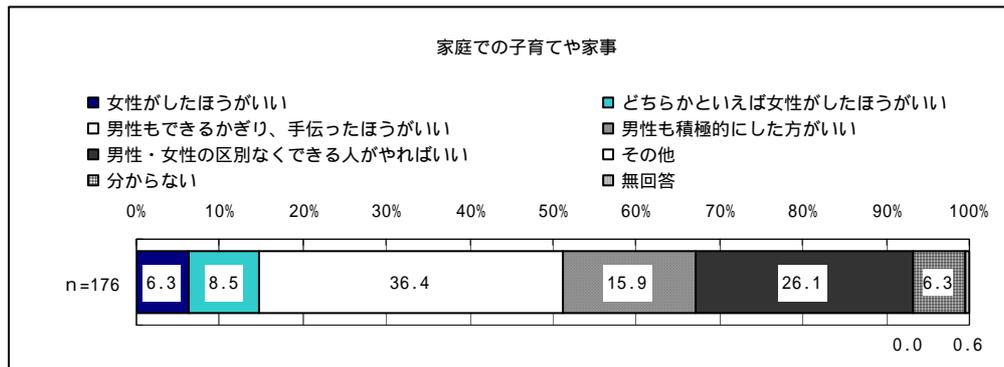
(10) 乳幼児とふれあう機会の有無

乳幼児とふれあう機会の有無について、「ふれあう機会はない」との回答が43.2%に上りますが、その他の半数以上は何らかのふれあう機会を有しており、特に「親戚の子どもと遊んだり、世話をしている」と回答した割合が35.8%に上るほか、「近所の子どもと遊んだり、世話をしている」割合も14.2%という結果です。



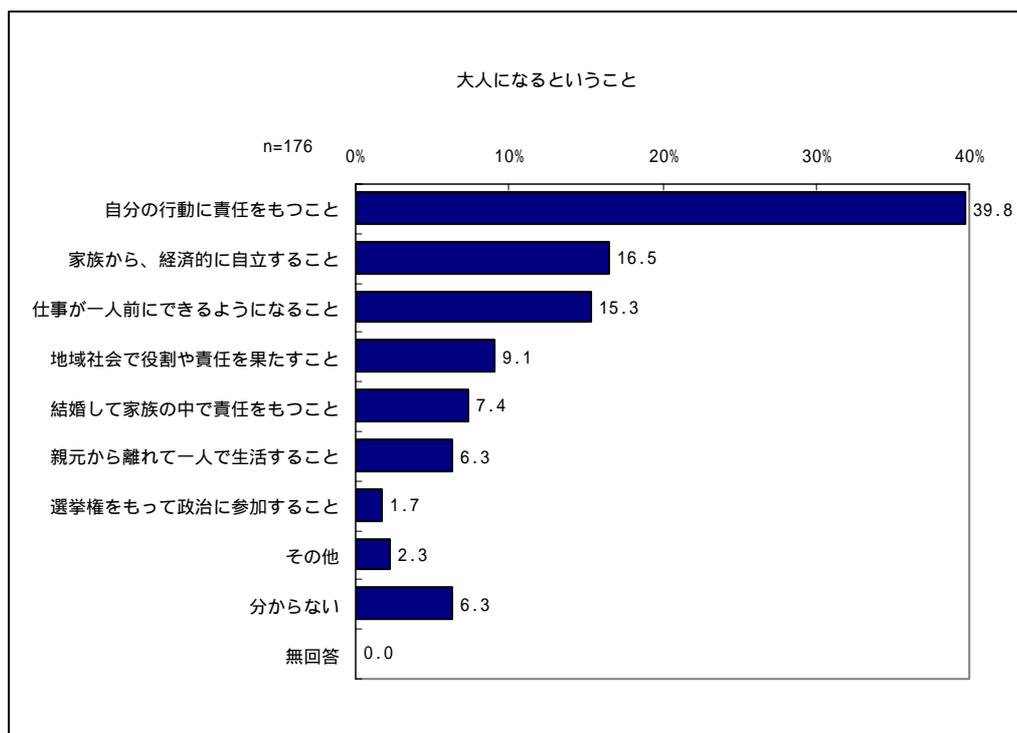
(11) 子育てや家事の役割分担について

家庭での子育てや家事について、「男性もできるかぎり手伝った方がよい」が36.4%と最も多く、次いで「男性・女性の区別なくできる人がやればよい」が26.1%、「男性も積極的にした方がよい」が15.9%という結果であり、男性も育児や家事に参加することの必要性を多くが感じ取っていることが示されます。



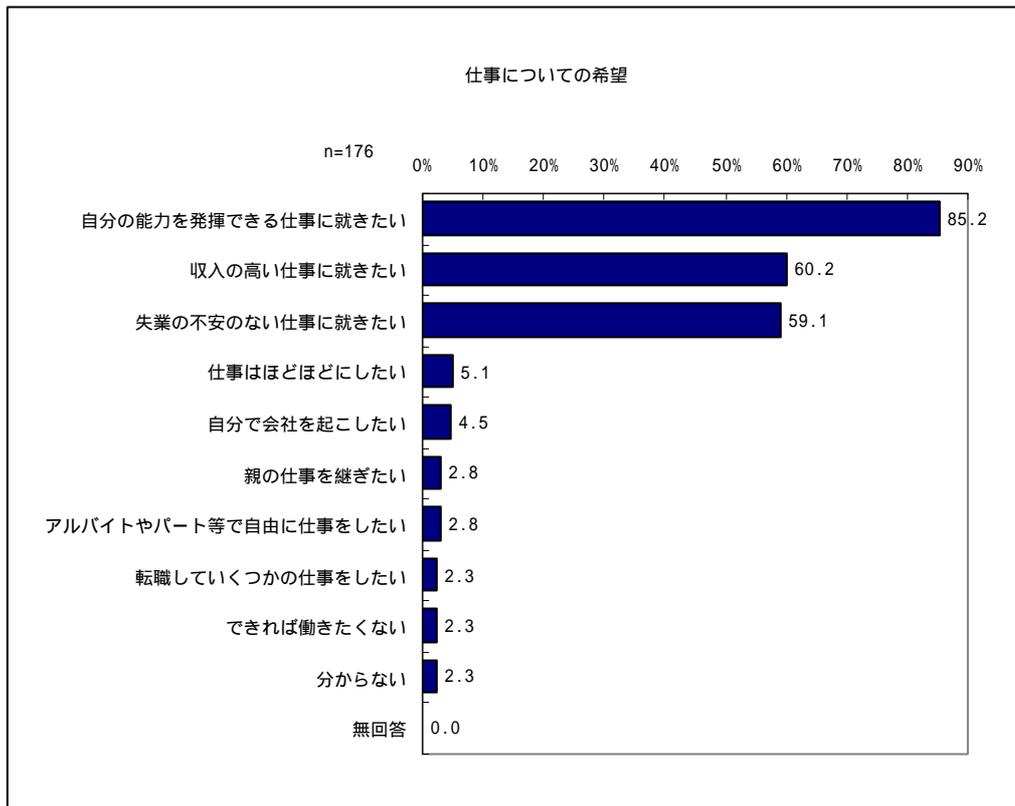
(12) 大人になるということについて

中高生にとって“大人になること”がどのようにとらえられているかをみると、「自分の行動に責任をもつこと」を挙げるのが39.8%と多数を占め、次いで「家族から経済的に自立すること」が16.5%、「仕事が一人前になれるようになること」が15.3%、「地域社会で役割や責任を果たすこと」が9.1%という結果です。



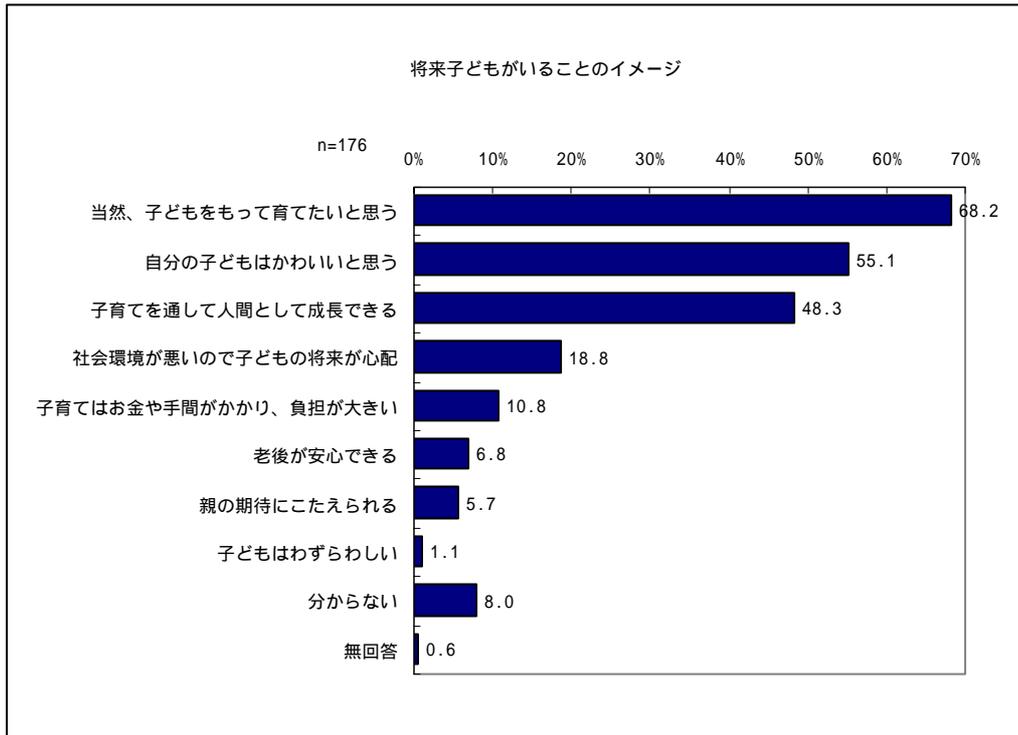
(13) 仕事に対する希望

仕事についての希望としては、「自分の能力を発揮できる仕事に就きたい」と考えている中高生が85.2%に上り、「収入の高い仕事に就きたい」(60.2%)や「失業の不安のない仕事に就きたい」(59.1%)といった高収入志向、安全志向を大きく上回る結果となっています。



(14) 子どもを持つことのイメージ

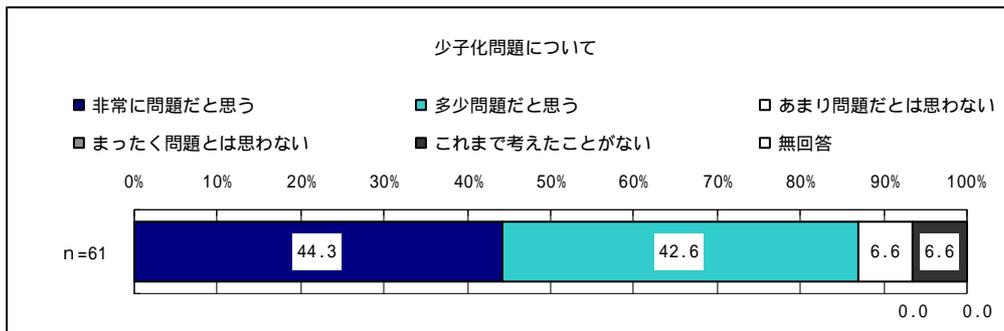
具体的に将来、子どもをもつことに関してどのようにとらえているかをみると、「当然、子どもをもって育てたいと思う」が最も多く68.2%に上ります。また、「自分の子どもはかわいいと思う」が55.1%と半数を超え、「子育てを通して人間として成長できる」が48.3%と、前問の不安とは裏腹に、全体として子育てへの意識がしっかりと植え付けられていることがうかがえます。



4 一般町民アンケート

(1) 少子化について

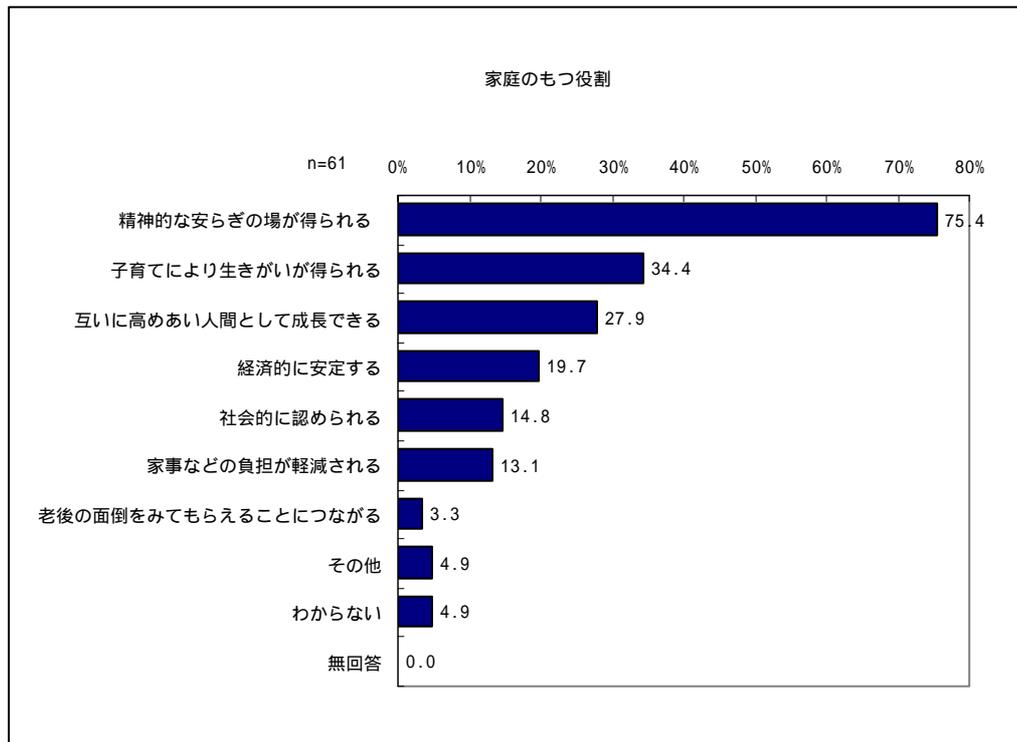
“少子化問題”へのとらえ方としては「非常に問題だと思う」が44.3%、「多少問題だと思う」が42.6%という結果であり、9割近くが少子化についての問題意識を示しています。「非常に問題だと思う」割合は、未婚者(48.7%)や子どものいない人(47.3%)で特に強く現れています。



(2) 家庭の存在意義

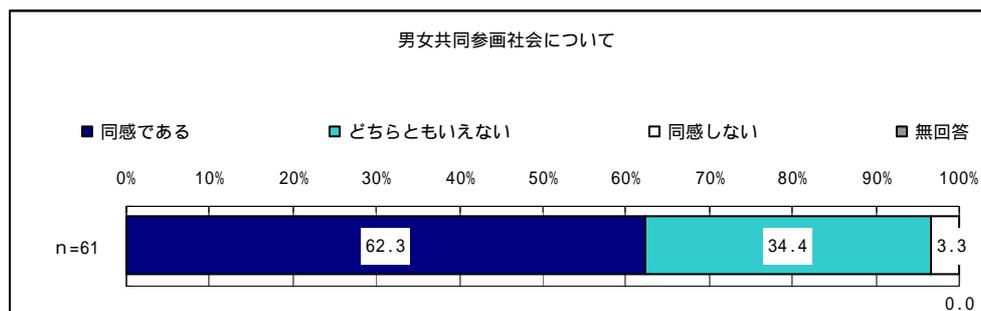
家庭がもつ役割について、「精神的な安らぎの場が得られる」と回答した人が圧倒的に多く全体の75.4%を占めます。

これに次いで「子どもを産み育てることにより、生きがいが得られる」が34.4%、「お互いに高め合うことができ、人間として成長できる」が27.9%と、精神的な安らぎや生きがい、人間としての成長性を家庭のもつ機能としてとらえる人が多い結果です。



(3) 男女共同参画社会について

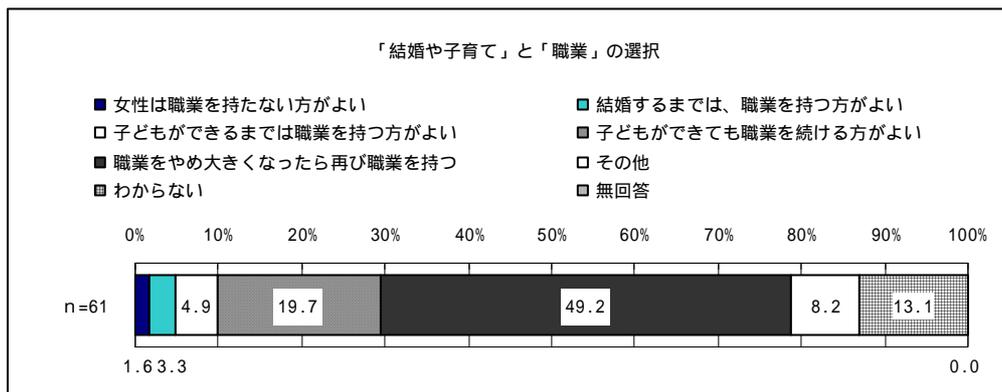
“男は仕事、女は家庭”という固定的な性別役割意識から、男女がそれぞれの能力に応じて社会進出し、育児や家事を分担していく「男女共同参画社会」の必要性について、「同感である」と回答した人が6割を超える(62.3%)一方、「同感しない」はわずかに3.3%にとどまっております。全体として男女平等意識、男女共同参画意識は高いと言えます。



(4) 女性の「結婚や子育て」と「職業」の選択について

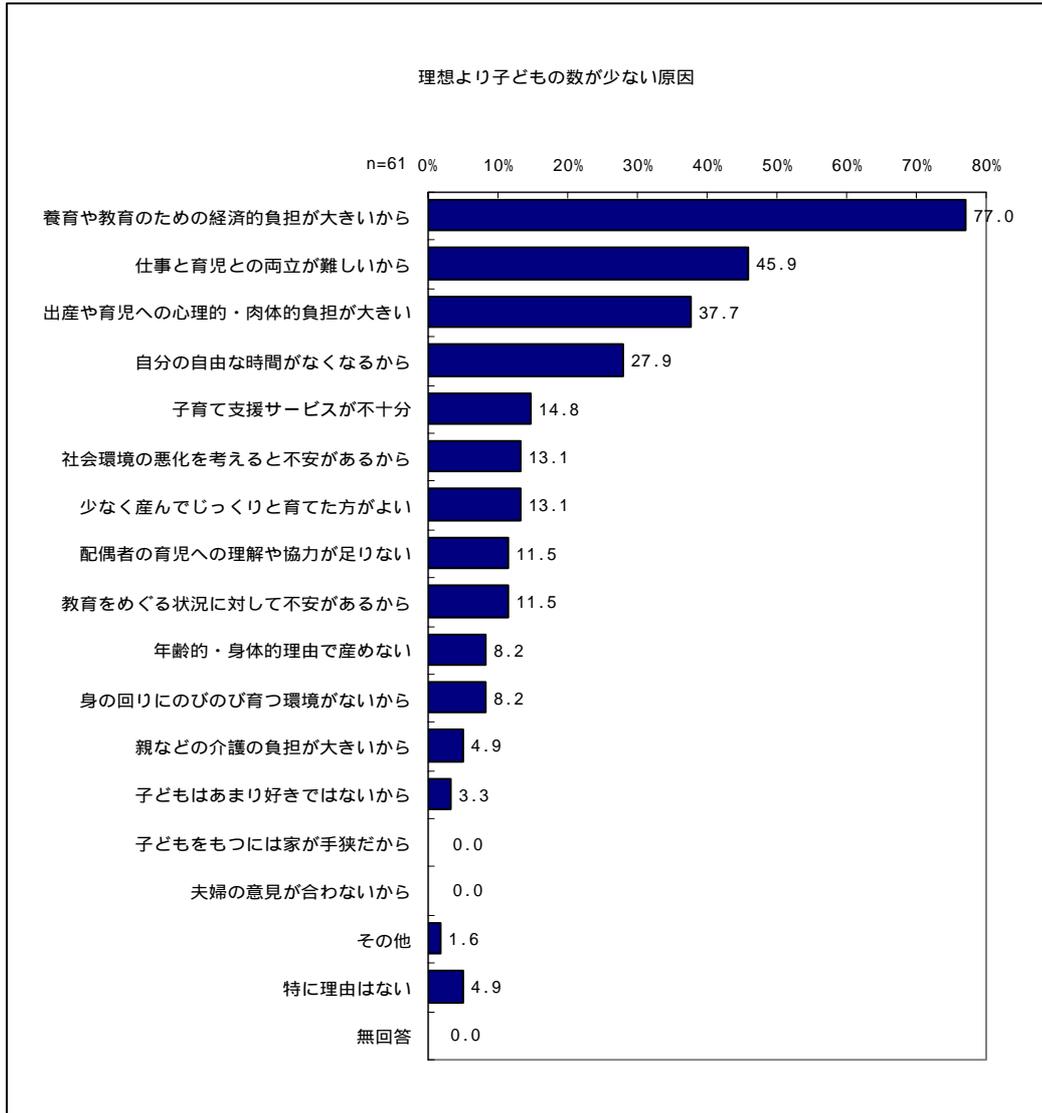
女性が結婚・子育てと職業を選択する場合について、「子どもができればたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答が最も多く全体の半数ほど（49.2%）を占めます。

次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が19.7%、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」が4.9%という結果です。



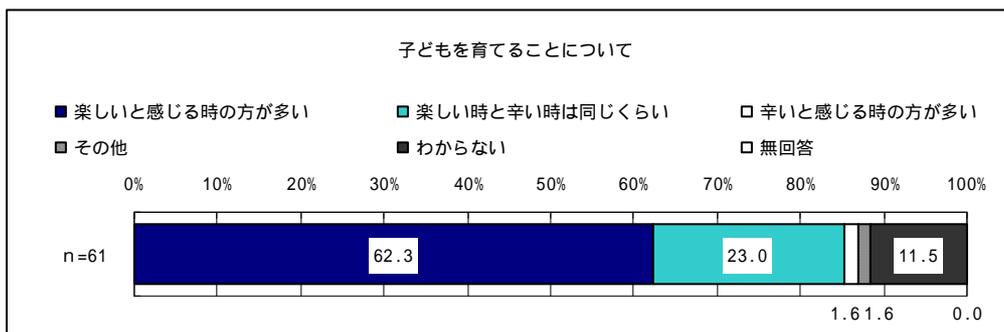
(5) 少子傾向の要因について

少子化が進む要因については、「子どもの養育や教育のための経済的負担が大きいから」と回答した人が8割近く（77.0%）に及び、次いで「仕事と育児の両立が難しいから」が45.9%、「出産や育児への心理的な不安や肉体的負担が大きいから」が37.7%、「自分のやりたいことができなくなったり、自由な時間がなくなるから」が27.9%という順位であり、経済的な負担の大きさや仕事と育児の両立の難しさ、出産・育児に関わる心理的、肉体的な負担の大きさが少子化の進む主な要因としてとらえられていることが示されます。



(6) 子育てについて感じること

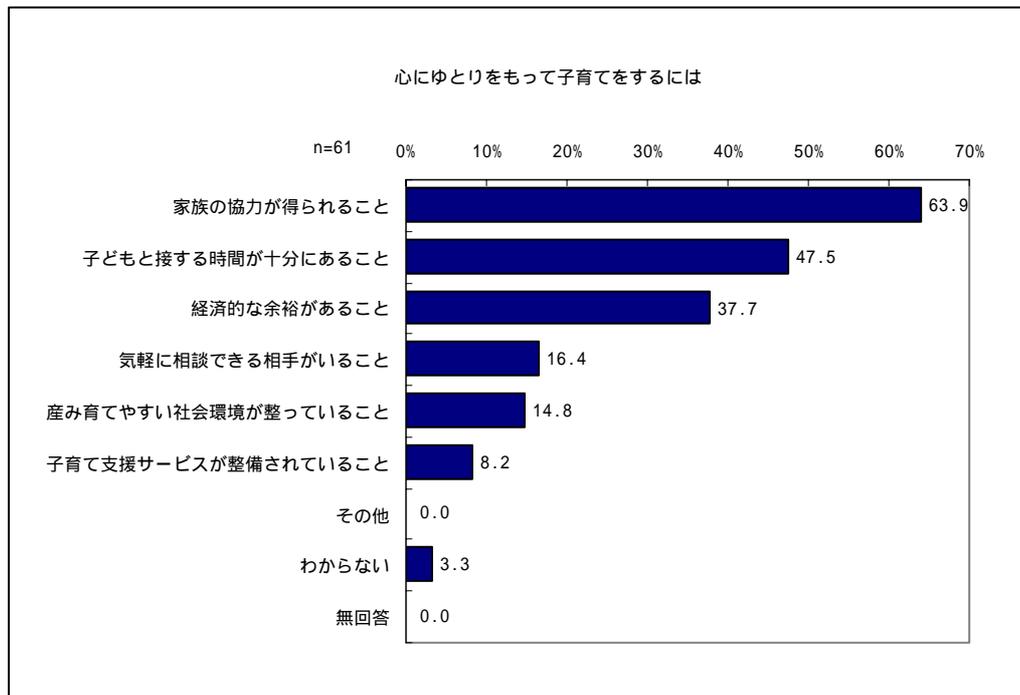
子育てについて「楽しいと感じる時の方が多い」と思う人が62.3%に上り、「楽しい時と辛いと感じる時が同じくらい」が23.0%、「辛いと感じる時の方が多い」はわずかに1.6%という結果であり、既婚者、未婚者にかかわらず子育てを楽しんでいる割合が高いことが示されています。



(7) ゆとりある子育てに必要なもの

ゆとりや自信をもって子育てするために必要なこととしては、「家族の協力が得られること」が第一番目に挙げられ、全体の63.9%を占めます。

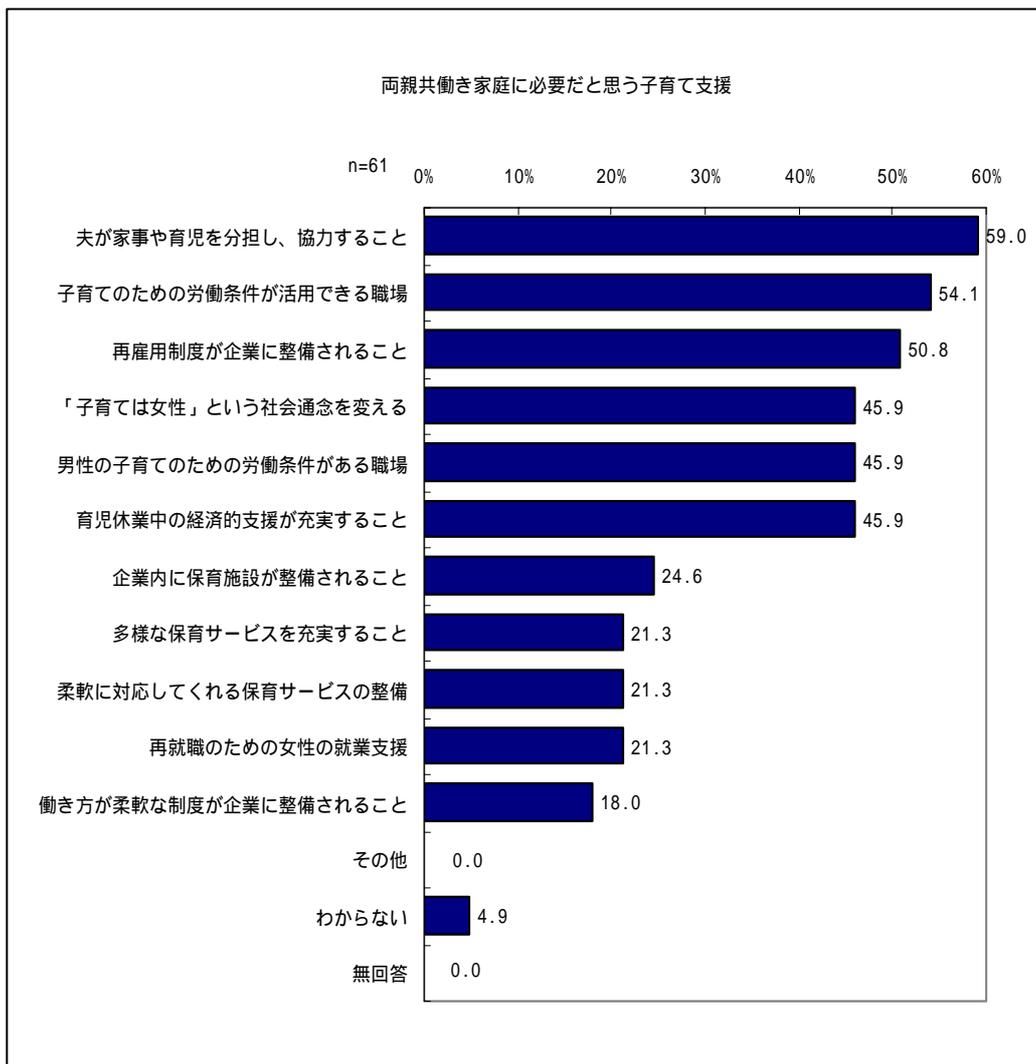
次いで「子どもと接する時間が十分にあること」が47.5%、「経済的な余裕があること」が37.7%、「気軽に相談できる相手がいること」が16.4%などと続きます。



(8) 共働き家庭への子育て支援について

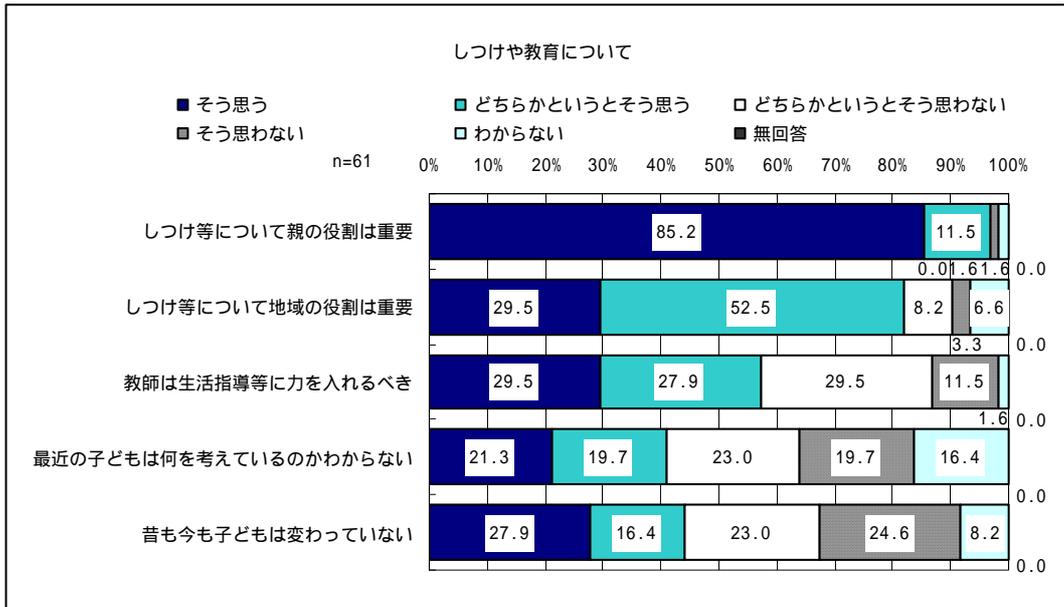
共働き家庭への支援のために必要なこととして、「夫が家事や育児を分担し、協力すること」を挙げる人が59.0%、「勤務時間の短縮やフレックスタイムの導入、育児休業、看護休暇など子育て者に配慮した労働条件・制度があり、それが実際に活用できる職場環境であること」が54.1%、「出産、育児のために退職した人が仕事に復帰できる再雇用制度が企業に整備されること」が50.8%という結果であり、夫の理解と協力のほか、職場での子育て支援制度の活用や再雇用制度整備が特に求められています。

これらに次いで「子育ては女性がするものという固定的な社会通念を変えること」や「男性も子育てに参加できるよう勤務時間の短縮やフレックスタイムの導入、育児休業、看護休暇など子育て者に配慮した労働条件・制度があり、それが実際に活用できる職場環境であること」、「育児休業中の経済的支援が充実すること」を挙げる人が45.9%という結果です。



(9) 教育・しつけについて

子どものしつけや教育に関する考えとして「子どものしつけ等について親の役割はますます重要だ」と「思う」割合が8割を超え(85.2%)最も多く、また、「子どものしつけ等について地域の役割はますます重要だ」と「思う」も29.5%であり、「どちらかというと思う」(52.5%)を加えると、地域の役割の重要性を認識している人が8割以上を占めます。そのほか「学校の教師はしつけや生活指導にも力を入れるべきだ」と認識している人が「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせると、6割近くを占めます。一方、「最近の子どもは何を考えているのかわからない」という考え方や「昔も今も根本的には子どもは変わっていない」との思いについては肯定派と否定派が拮抗した結果となっています。

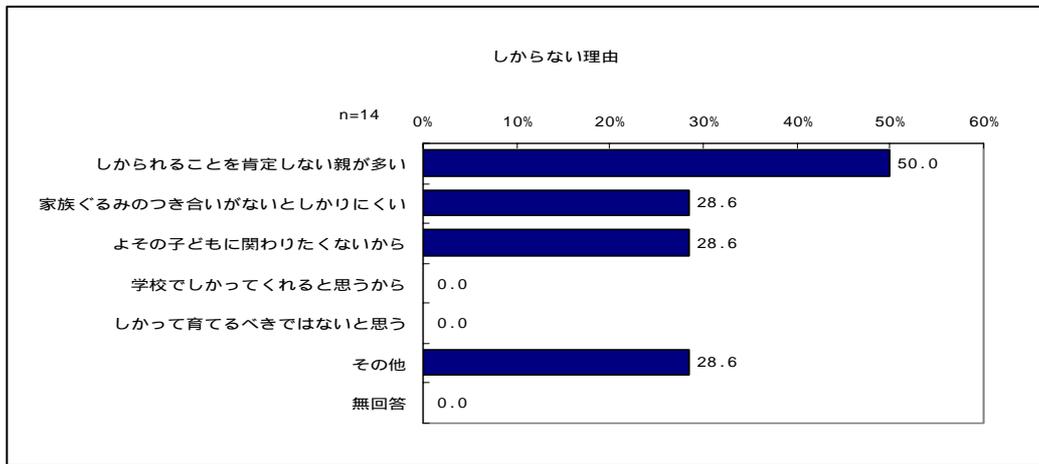
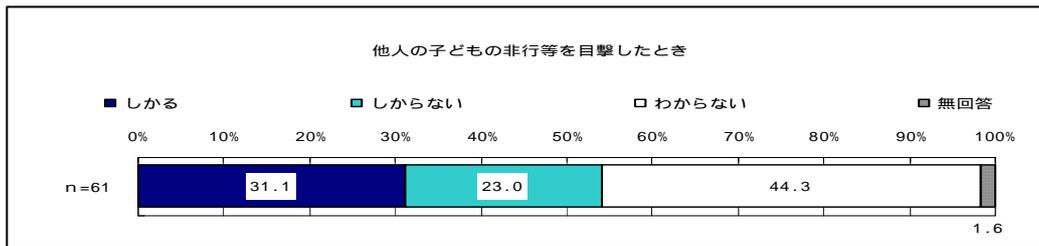


(10) 他人の子どもを叱ることについて

子どもの非行などを目撃した場合に、「叱る」と回答した人は31.1%であり、「叱らない」の23.0%を若干上回ります。

しからないと回答した人(回答者数: 14人)にその理由をたずねたところ、「他人から自分の子どもがしかられることを肯定しない親が多いから」を挙げる人が50.0%、「家族ぐるみのつき合いがないとしかりにくいから」や「よその子どもに関わりたくないから」がともに28.6%という結果です。

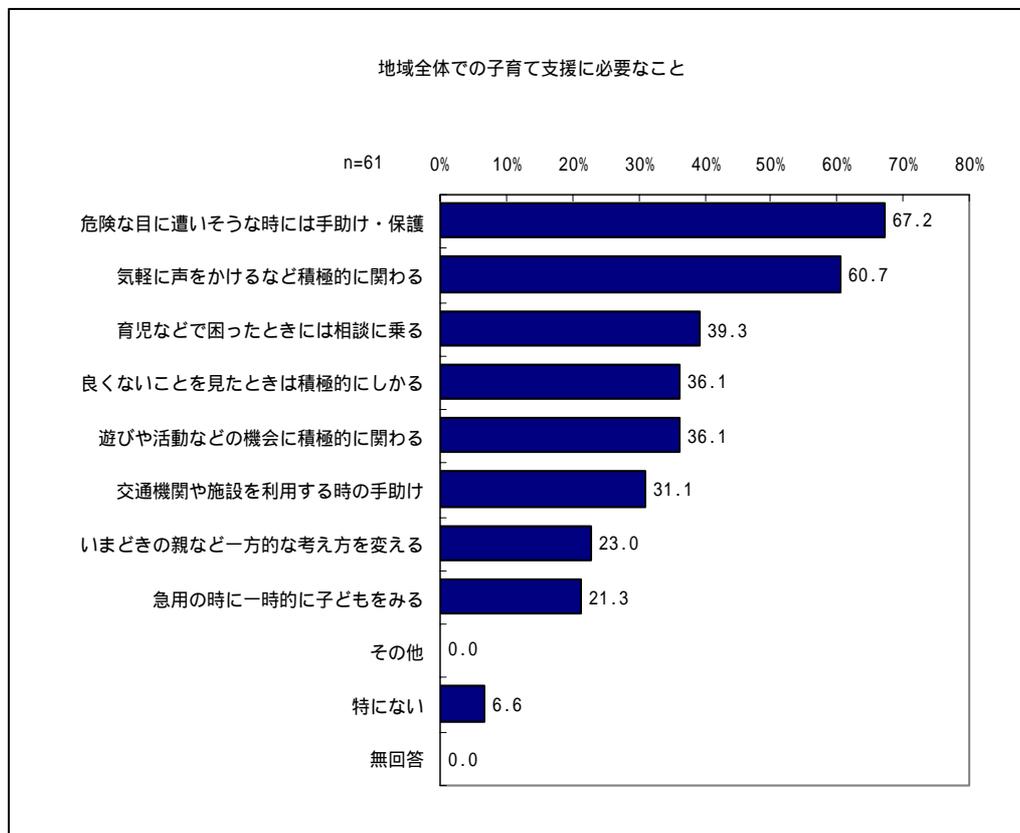
このことは、子どもの非行などを目撃した場合の対応として、「わからない」と回答した人が圧倒的多数を占め44.3%に上る理由にもつながるところがあると考えられます。



(11) 地域子育て支援に必要なもの

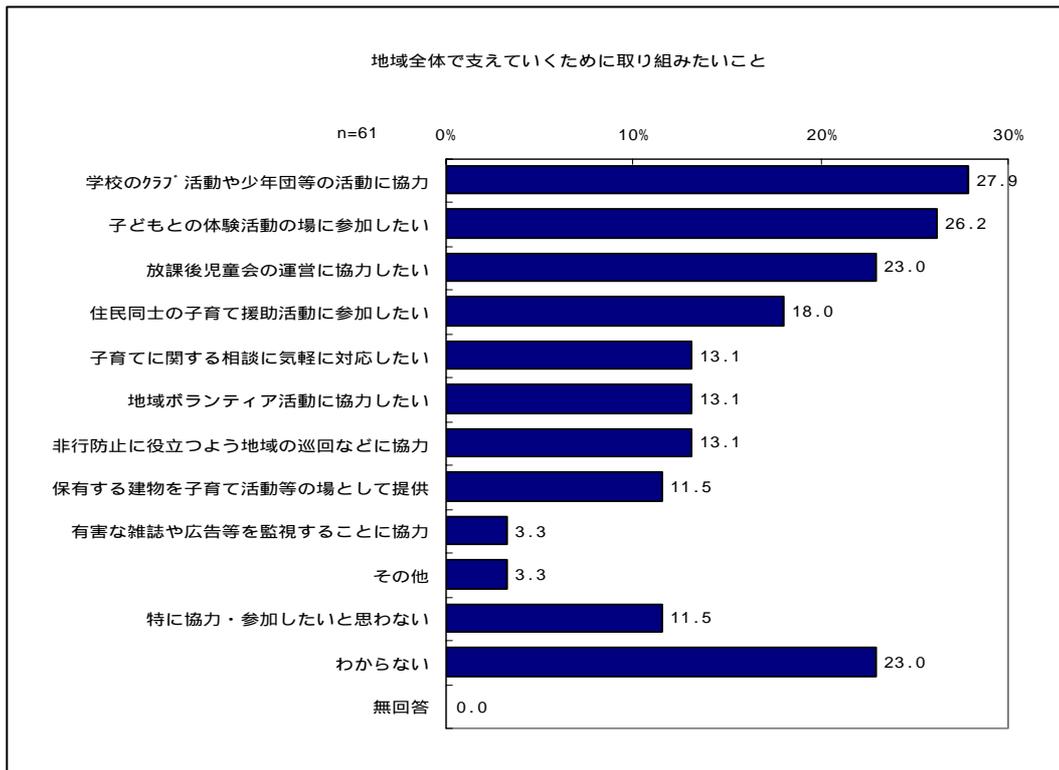
地域全体で子育てを支援していく上必要なこととしては「子どもが危険な目に遭いそうな時は手助けや保護をすること」が67.2%、「出会った時に気軽に声をかけあうなど、積極的に子どもに関わること」が60.7%と、子どもの安全確保への地域全体での監視や保護、あるいは地域住民が進んで子どもに関わることの重要性を認識している町民が多い結果です。

このほか、「育児などで困ったことがあった場合には相談に乗ること」(39.3%)、「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは、積極的にしかること」、「子どもを対象とした遊びや活動などの機会に積極的に関わること」(ともに36.1%)、「子ども連れで交通機関や施設を利用する時に困っていたら手助けをすること」(31.1%)についても3割以上がこれらの重要性を挙げています。



(12) 地域による次世代育成に向けて取り組みたいこと

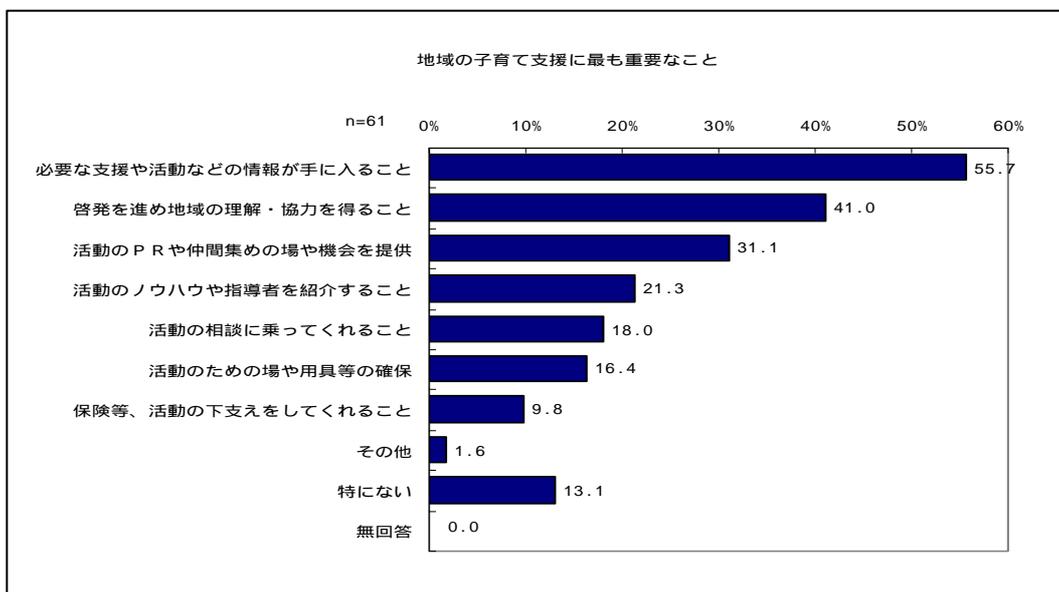
少子化対策や子どもの健全な育成を地域全体で支えていく上で、取り組みたいと考えていることとしては、「学校のクラブ活動や地域のスポーツ少年団などの活動に協力したい」が27.9%、「放課後や土日などに昔ながらの遊び、スポーツ、絵画、ものづくり、パソコン操作など子どもといっしょに体験活動をする場に参加したい」が26.2%、「昼間保護者のいない小学校低学年児などを保育する放課後児童会の運営に協力したい」が23.0%といったことが上位に挙げられています。



(13) 次世代育成に向けて地域がすべきこと

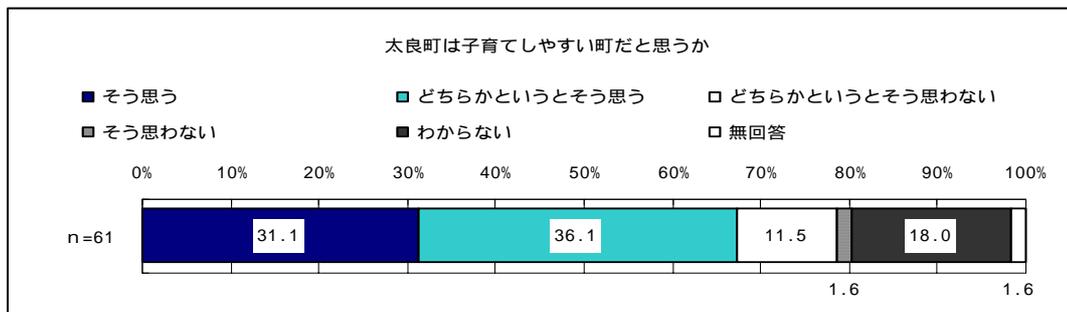
地域全体で子育ての支援や子どもの健全育成に取り組んでいく場合、最も重要なこととして、「**どういう支援が必要か、どんな活動があるか等について情報が手に入ること**」を挙げる人が最も多く全体の**55.7%**が的確な情報の提供を望んでいます。

次いで「**広く啓発を進め、地域の理解・協力を得てくれること**」と回答した人が**41.0%**であり、地域全体で広くコンセンサスを形成し協力を得ていくことの重要性を挙げています。また、「**活動のPRや仲間集めの場・機会を提供してくれること**」を求める意見も全体の**3割ほど(31.1%)**を占めます。



(14) 子育てのしやすさに対する町の評価

太良町での子育てのしやすさに対する総合的な評価としては、子育てしやすいまちだと「思う」と回答した“積極的肯定派”が31.1%、「どちらかというと思う」が36.1%と、両者を合わせると肯定的評価が7割近くに上り、否定的評価（「どちらかというと思わない」と「思わない」の合計値）の13.1%を大きく上回る結果です。



(15) 少子化対策に必要なこと

少子化の流れを変えるために今後重要ことに関してそのプライオリティ（優先度）を読みとると、「児童手当や税制の見直しなど、子どもの養育費を軽減する」が50.8%で、経済的負担の軽減に対する要望が最も高い結果です。

次いで「若い世代に対し結婚や出産・子育ての喜びや楽しさに関する意識啓発を行う」が32.8%、「子ども連れでも安心して出かけられる子育てに配慮した社会環境づくりを進める」が27.9%、「男女共同参画の意識啓発や男性の家事・育児体験、技術指導などの機会を充実する」が25.2%、「事業所に対し育児休業制度の普及などの啓発を進める」や「低年齢児保育、病後児保育、一時保育、延長保育など多様な保育サービスを充実する」、「出産祝い金等を支給する」がそれぞれ24.5%という順位となっています。

少子化の流れを変えるのに重要なこと

